



DOWA
CSR REPORT 2007
CSR報告書2007

DOWAの社会的責任とは？

未踏の領域への挑戦

新生 DOWA としての船出

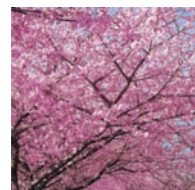
吉川
昨年度は、私たち DOWA グループにとってまさに「未踏の領域へ挑戦」し始めた、大変目まぐるしい1年でした。ハードルの高い経営目標を掲げた事業構造改革Ⅲ「Jump up to the New Stage」のスタートの年であり、また持株会社制への移行と、あわせて永年慣れ親しんだ「同和鉱業」の社名を「DOWA ホールディングス」にするという大きな組織変更も実施いたしました。「新生・DOWA」として実質的には今年度が、まさに本格始動の年にあたります。

河野
今年は、「現場」と「人材」を重点テーマとして掲げ、5つの事業会社それぞれを強く育てていくことにこだわっていきたくと考えています。どちらも DOWA グループの収益を生み出す原動力であり、真のエクセレント・カンパニーを目指すためには抜本的な改革・強化が不可欠です。昨年度はメタル価格の高騰等の追い風もあり過去最高益を達成できましたが、気を緩めることなく、グループ一丸となって一層高いレベルを目指していきます。

吉川
社外に目を向けると、好景気や市場のグローバル化等の後押しもありますが、相変わらず破竹の勢いで成長し続けている元気な企業が目立ちます。私たち DOWA グループも、時代の変化に対応し、遅れることなく事業構造改革Ⅲを推進していかなければなりません。



「児島湖周辺を河津桜の里に」



DOWA グループでは、当社工場が立地する岡山県の児島湖周辺で、地域の皆様とともに3,000本の河津桜を咲かせるための植樹・育成活動に取り組んでいます。

DOWA の果たす社会貢献

本業を通じて社会に貢献する企業として

吉川
元気な企業は同時に、企業の社会的責任（CSR：Corporate Social Responsibility）という点についても、積極的に取り組んでいる先進事例として目にすることが多いです。CSRと一言でいっても幅広い捉え方をされていますが、私は大きく2つあると思います。一つは、法令順守や、環境保全といった会社を取り巻く社会への責任。もう一つは、私達の企業活動によって影響を受ける株主、取引先、地域、行政、従業員といったステークホルダー（利害関係者）の方々への責任です。企業規模や地域が拡大すればするほど、それだけ社会的に影響を及ぼす範囲も広がるわけですから、当然ながら CSR という視点は、一層重要になってくると思います。DOWA グループも、今年度から従来の「環境報告書」を装い新たに「CSR 報告書」として、刊行することにしました。ここで改めて、DOWA にとっての CSR について、考えてみたいと思います。

河野
DOWA グループの大きな特徴は、私たちが力を入れている環境事業を中心とする循環型事業が社会に大きく貢献しているということです。DOWA グループは、世界でもトップレベルの16種類の金属を回収する製錬、工程スクラップや端材、使用済み製品等に含まれる有価金属をリサイクルし、有害物質は確実に無害化する環境・リサイクル、金属を加工して付加価値を高め、自動車や電気・電子機器をはじめとする様々な分野に素材を提供する電子材料・金属加工・熱処理の5つの事業を展開しています。世界的に金属資源の枯渇が深刻になりつつある昨今、これらの事業を通じて、自ら率先して国内・海外で使用済み製品等からの金属リサイクルを推進して、リサイクル原料の世界的な活用を促していく役割が、DOWA の社会的使命として今後一層求められてくると思います。120年以上も金属資源と向き合ってきた私たち DOWA だからこそ、世界中のあらゆる産業に不可欠な、限りある金属資源の有効利用を世界的に推進する旗振り役として、その存在感を広く社会に示していきたいと考えています。

地域貢献活動の展開

地域から国際社会へと成長する DOWA の環

吉川
そうですね、社会全体、そして世界において使命を果たしていくことも大変意義あることです。また、事業を進めていく上で、私たち DOWA グループに身近な地域の皆様との関係、すなわち地元へ根差した事業や地域貢献活動の展開も欠かせません。昨年度は秋田県小坂町の鉱山跡地で大規模な植林活動を展開しました。小坂町の生活ごみと地域の特産である桃豚を飼育する際に発生する豚糞で作った堆肥、そして DOWA の浄化土壌を活用して、約8,000本の苗木を植えました。今後も、さらに鉱山跡地の緑化を推進する計画です。また、今年度からは私どもの先達が大変な苦勞をして成し遂げた児島湾干拓事業の中心地、岡山市の児島湖周辺を桜回廊の名所にすべく、地元企業とタイアップした植樹事業がスタートいたします。かつて自社の鉱山周辺の植栽を枯らしてしまった苦い教訓を糧に、こうした過ちは二度と繰り返さないことを誓い、今後もこうした緑化活動をはじめとする地域貢献を是非とも積極的に進めたいと思っています。

河野
地域の理解や支援があってこそ成り立つのが、DOWA の循環型事業です。鉱山・製錬専門の時代に、地元の街づくりから着手した私たち DOWA グループにとって、地域がいかに大切か、という視点はこれからも引き続き、重要と考えています。“Think globally, Act globally and locally.”を心がけたいですね。

吉川
地域に根差した循環型事業を、グローバル・レベルで一層強化すること、例えば、小坂製錬や秋田製錬が、世界中のリサイクルネットワークと連携することで循環型事業が促進され、結果として地球全体への環境負荷を下げることに、DOWA グループ全体の利益向上にも繋がります。このような取り組みが、株主や取引先、地域、そして DOWA 社員といったあらゆるステークホルダーの方々为满足できる、DOWA の CSR が目指すべき方向へ続いていると信じています。

河野
「地球を舞台とした事業活動を通じ、豊かな暮らしの創造と資源循環社会の構築に貢献する」という私たち DOWA グループの企業理念そのものですね。社内外の様々な声に真摯に耳を傾けながら、これからも循環型事業を力強く推進し、未踏の領域に挑戦し続けていきたいと思っています。

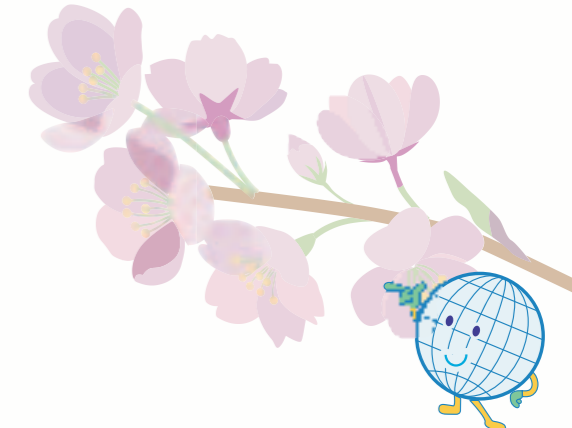
吉川
まずは、この「CSR 報告書」を一人でも多くの方々にお読みいただき、忌憚のないご意見、ご感想を頂戴しつつ、私たち DOWA グループの CSR に関する取り組みにご理解とご賛同を得ながら、一步一步着実に前進していきたいと考えています。

代表取締役会長・CEO

吉川 廣和

代表取締役社長

河野 正樹



DOWAって、こんな会社です。

DOWAグループ全体で、
循環型社会をサポートしています。



いってらっしゃい!

おかえりなさい!

INDEX

ごあいさつ	01
目次	03
CSR 特集	
● DOWA の CSR	05
○ DOWA が実現する循環型社会	07
○ DOWA は地球を守ります。	09
● CSR ハイライト	11
○ 世界へ広がる DOWA のリサイクルネットワーク	11
○ 鉱山跡地などで本格的な森づくりにチャレンジ	13
○ DOWA 杯ジュニア・クロスカントリースキー 十和田湖大会	15
○ 化学物質に係る環境対話集会の開催	16
社会性パフォーマンス	
● 社会性報告	17
○ CSR トピックス	19
○ DOWA グループの人材育成	21
環境パフォーマンス	
● 環境報告	23
○ 環境管理体制	25
○ エネルギー	26
○ 地球温暖化対策	27
○ 廃棄物・リサイクル	28
経済的パフォーマンス	
● 経済性報告	29
○ 外部経済効果	31
○ 環境会計	32
事業の概要	
○ DOWA とは?	33
○ 環境・社会活動の歴史	37
○ 基本要件	38

DOWA メタルマイン

金・銀・銅などの
金属資源の製錬を
行っています。

DOWA エレクトロニクス

プラズマディスプレイ
などに使う銀粉などを
作っています。

DOWA メタルテック

電気製品のコネクタ
などに使う高性能
合金を作っています。

DOWA サーモテック

車の部品を強くする
ための熱処理加工を
行っています。

DOWA エコシステム

廃棄物の処理、土壌浄化、
金属リサイクルを
行っています。

編集方針 にあたって

(1) 組織の変更
同和鉱業株式会社は、2006年10月1日持株会社制に移行し、「DOWAホールディングス株式会社」として新たなグループ経営体制をスタートいたしました。(詳細情報→P33)
本報告書では、対象期間途中の組織変更であること、環境報告書2006とのデータの連続性を重視し、2005年度と同様の組織体制で集計を行っています。
なお、各社・グループ子会社の名称は2006年10月1日以降の新社名を使用しています。

(2) CSR報告書への移行
当社グループは、2000年度より環境報告書を発行してまいりましたが、2007年より社会的な内容に加え「CSR報告書」として発行することといたしました。
また、新たな取り組みとして、より多くの情報をわかりやすくお伝えするために、冊子版と詳細データを記載したWEB版(2007年9月予定)の2部構成で発行することといたしました。
本報告書では、DOWAグループの環境保全活動の全体像を分かりやすくするために、要点を絞って編集・報告しています。詳細な情報や事例などはWEBに掲載していますので、下記のマークがついた情報についてはWEBをご覧ください。



○ WEB版 CSR報告書(2007年9月末公開予定)
<http://www.dowa-csr.jp>

■対象組織

DOWAグループの直轄工場/事業所およびグループ会社の活動報告を基本に、一部の報告ではDOWAグループ全体、あるいはグループ会社の活動についても取り上げ、ご紹介しています。
※原則として、連結対象で従業員50名以上の事業所および会社を報告対象として選定しました。

■報告対象分野

上記報告対象組織の活動について、「経済」「社会」「環境保全」という3側面から、それぞれの実施状況・結果・今後の方針などを報告しています。

■対象とする読者

お客様、株主・投資家、お取引先様、地域、研究者、学生の皆様、社員など、および格付・評価機関、行政、NPO、DOWAグループの企業活動にかかわるすべてのステークホルダーの方々。

■対象期間

対象期間は、2006年4月1日から2007年3月31日までですが、一部に過去の経緯や発行時期までに行った活動についても記載しています。
※2006年度の活動を報告するにあたり、データを精査、これを修正した結果、昨年度の報告書と実績数値が異なっている項目があります。

■参考にしたガイドライン

・環境省「環境報告書ガイドライン(2003年版)」
・Global Reporting Initiative「サステナビリティ・リポーティング・ガイドライン2002」



ガイドライン対照表はWEBサイトに掲載しています。

■今後の方針/ご意見の募集ほか

巻末に、『CSRレポート2007』のアンケート葉書をご用意いたしました。皆様のご意見・ご感想をお待ちしております。



DOWAのCSR（企業の社会的責任）

CSRへの取り組み

私たちを取り巻く世界には、化学物質による汚染やエネルギー問題、地球温暖化、オゾン層の破壊など、多様な環境問題が存在します。

地球規模で進むこれらの環境破壊は、お互いが強く影響し合っており、その解決には国境を越えて取り組まなくてはなりません。

DOWAグループは、「地球を舞台とした事業活動を通じ、豊かな暮らしの創造と資源循環社会の構築に貢献する」という企業理念のもと、国際間での物質循環システムの構築による資源リサイクルを促進し、環境負荷の少ない製品・技術を開発、また廃棄物管理や土壌浄化を中心とする環境リスクの低減を進めるなど、事業を通じて世界規模の環境・エネルギー問題に真剣に取り組んでいます。

事業活動の展開にあたっては、さまざまな立場のステークホルダーの方々とかかわりながら、透明性の高い経営体制を構築し、また、リスクマネジメント体制の整備や内部統制システムの強化を行い、信頼される企業づくりに努めています。

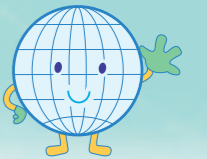
環境・社会目標と達成状況

DOWAグループは、事業活動に伴う環境への影響を減らし、真に社会に貢献する企業を目指して、さまざまな活動を着実に展開しています。

特に、地球温暖化防止は当社の大きな目標であり、燃料転換やモーダルシフト、低公害車の導入など、グループ全体でCO₂排出削減に取り組んでいます。

また、鉱山・製錬を事業の礎とした当社事業の特性で、今でも全国に多くの森林を所有しています。これまで鉱山跡地の緑化活動の一環として植林を行ってきましたが、温室効果ガスの削減のためにも、計画的に健やかな森を育てる地域ぐるみの森林保護・育成に取り組んでいます。

2006年度のCO₂排出量は総量での削減、また金属価格の高騰などにより原単位で35%削減と大きな成果を上げました。既存森林の整備でも目標を達成し、さらに新規で約2万本の植樹を行うことができました。環境事故などの法令違反も、目標としていた0件を達成しました。



環境基本方針

基本理念

DOWAグループは、企業理念である「当社は地球を舞台とした事業活動を通じ、豊かな暮らしの創造と資源循環社会の構築に貢献する」を環境保全活動の基本とし、また「地球環境の保全に配慮し、資源の有効活用とリサイクルを進める」を環境に関する行動規準とする。

DOWAグループは、企業活動と環境との調和をはかりつつ地球環境への負荷を低減し、地球的規模での持続的発展が可能な社会の実現に貢献する。

DOWAグループの環境保全活動は以下の通りとする。

1. 当社の事業活動における公害防止、省資源、環境負荷の低減などの活動
2. 社会の環境リスク低減に貢献するための活動

行動指針

環境負荷の継続的な低減及びゼロエミッションを推進するために、全社、各部門、並びに関係会社ごとに環境目的・目標を設定し、環境管理システムを構築する。

事業活動に係わる環境側面（大気、水質、土壌、廃棄物等）を常に認識し、環境負荷低減に取り組むとともに、定期的に環境目的、目標の見直し及び環境監査を実施する。

事業活動、製品、サービスに係わる環境関連法規、規則、協定等の遵守に努め、環境の保全と向上をはかる。

当社の環境・製錬施設を通じて、廃棄物、土壌汚染など社会の環境リスク低減に努めるとともに、金属のリサイクル、エネルギーの回収及びクリーンエネルギーの利用を実施し、環境保全、省エネルギー、省資源、ゼロエミッション等に貢献する。

従業員の環境への意識向上をはかり、また環境保全活動を通じて地域社会との調和をはかる。

項目	目標	達成状況	掲載頁	
地球温暖化対策	CO ₂ 排出原単位の削減	原単位(売上当排出量)前年比1%減少 達成	前年比35%減少 27	
	森林育成の推進	既存森林の整備：2005~2008年の4年間計画所有森林1,600haのうち、約600haを対象とする。	小坂、大湯ほか、全5地区で約400haの除間伐等を実施 達成	13
		新規植林：秋田県小坂地区への植樹	小坂地区4ヵ所に計1ha、約2万本の植林を実施 達成	13
コーポレート・ガバナンス	法令遵守	法令違反件数 ゼロ 達成	違反件数 ゼロ 14	
コミュニケーション	地域貢献活動の強化	森林育成を通じた地域住民参加行事の開催	2006年 9月 「誓いの碑」記念植樹 2006年 11月 親子林業教室 14	
	情報公開の推進	DOWA WEBサイトによる環境情報の公開	2006年 10月より環境社会貢献情報(活動方針・レポート等)を公開 http://www.dowa.co.jp/jp/kankyo/ 16	
		リスクコミュニケーションの実施	2007年 3月 千葉県と新日本プラスの共催で化学物質に係る環境対話集会を実施	



DOWA が実現する循環型社会

DOWA グループの特徴ある企業活動と事業を通じた CSR

世界各地 の異常気象や生態系破壊など、目に見える環境問題として今や世界中で認知され、私たちに迅速な行動を促している「地球温暖化」。その一方で、日常生活の中では目に見えず、気がつかないうちに急速な勢いで地球上から枯渇している、金属をはじめとする「天然資源」。特に金属は鉄鉱石など一部を除いて、金・銀・銅ほか大部分の元素が今世紀中に枯渇してしまう可能性が取りざたされています。

DOWA グループは、前身の藤田組、そして同和鉱業の時代を通じて、120年以上前から金属資源に一番近いところで向き合ってきました。国内外の鉱山から掘り出した鉱石を原料として製錬所で地金を生産する「鉱山・製錬」事業から出発し、やがて地金を加工する電子材料・金属材料・熱処理などの川下分野へ進出、自動車や電気・電子製品など、私たちの身の回りにある様々な最終製品を構成する素材や部品を提供し続けています。そして、こうした製品の製造過程で発生する排出物や使用済みの製品を回収し、有害物質を確実に無害化した上で、有用金属を製錬所で再び地金にして世の中へ送る「環境・リサイクル」事業。つまり DOWA は、川上から川下まで、そして再び川上へという「循環型事業」を展開しているのです。

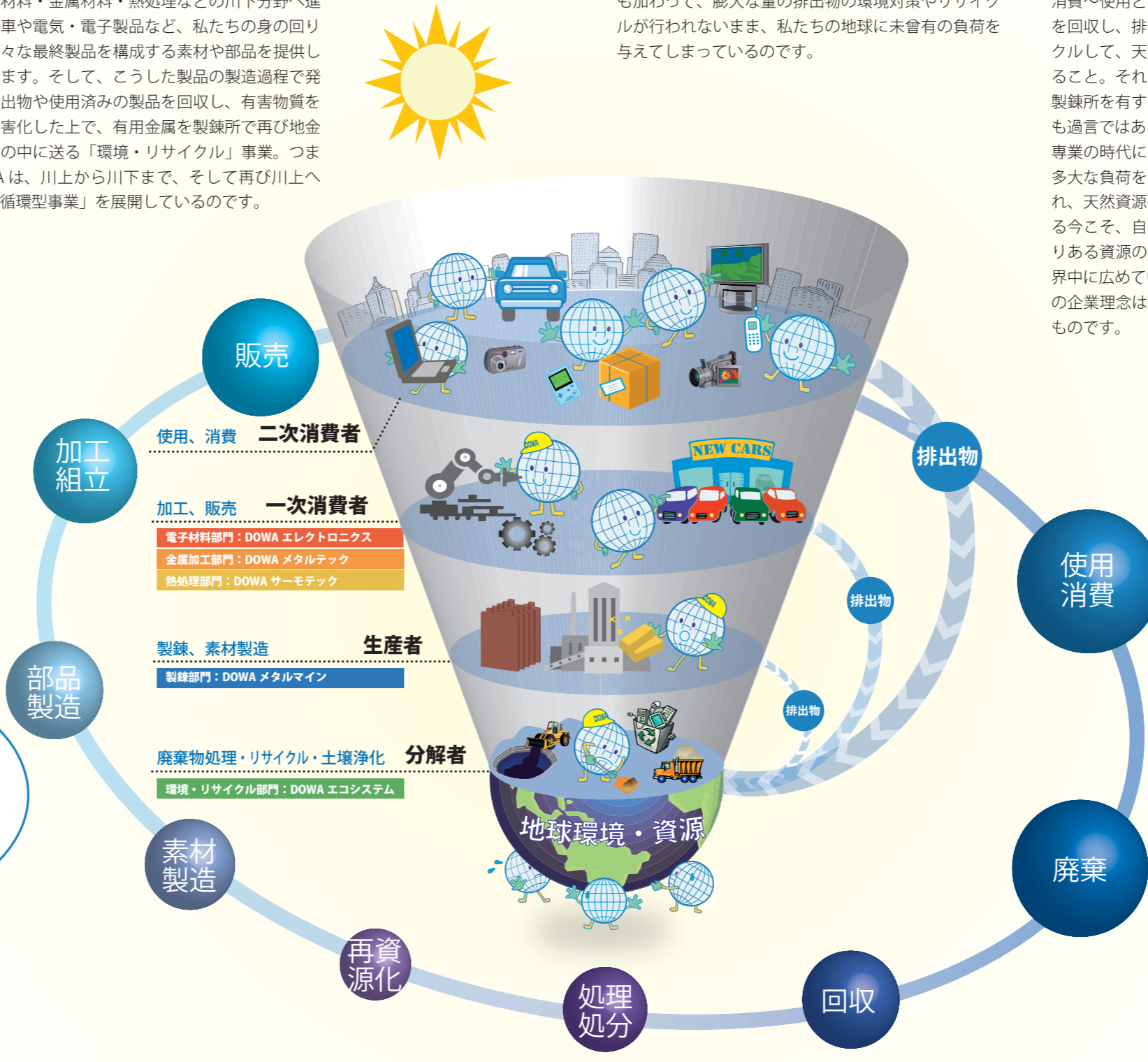
今、世界中を見渡すと、豊かさが飽和・過剰気味になりつつある先進諸国の一方で、急激な人口増加と経済成長に伴い旺盛な消費を志向する発展途上国が次々と出現しています。その結果、生産が消費に追いつかないばかりか、先進諸国から流れてきた中古製品も加わって、膨大な量の排出物の環境対策やリサイクルが行われないうちに、私たちの地球に未曾有の負荷を与えてしまっているのです。

世界中 の旺盛な需要に引きずられて天然資源が掘り尽くされてしまわないうちに、そして排出物が地球に与える負荷が限界を超えてしまわないうちに、手を打たなければならない——今まさに、DOWA の循環型事業の出番です。すなわち、生産～加工～販売～消費～使用という各ステージにおいて発生する排出物を回収し、排出物に含まれる金属を可能な限りリサイクルして、天然資源の枯渇・散逸を最小限に食い止めること。それは、鉱石や排出物から地金を製造できる製錬所を有する企業に課せられた社会的使命と言っても過言ではありません。DOWA もかつて、鉱山・製錬専門の時代に、国内外で天然資源を乱掘して、地球に多大な負荷を与える一方の立場にありました。時は流れ、天然資源の枯渇危機という重大な局面を迎えている今こそ、自ら率先して循環資源の供給者として、限りある資源の有効利用、すなわち「循環型社会」を世界中に広めていかなければなりません。——DOWA の企業理念は、まさに CSR（企業の社会的責任）そのものです。

自然界の生態系の食物連鎖はこんなふうにピラミッド形でバランスが取れています。



社会における資源循環はピラミッドが逆さまになったような形をしています。DOWA は、地球環境と資源を根っこの部分で支えています。



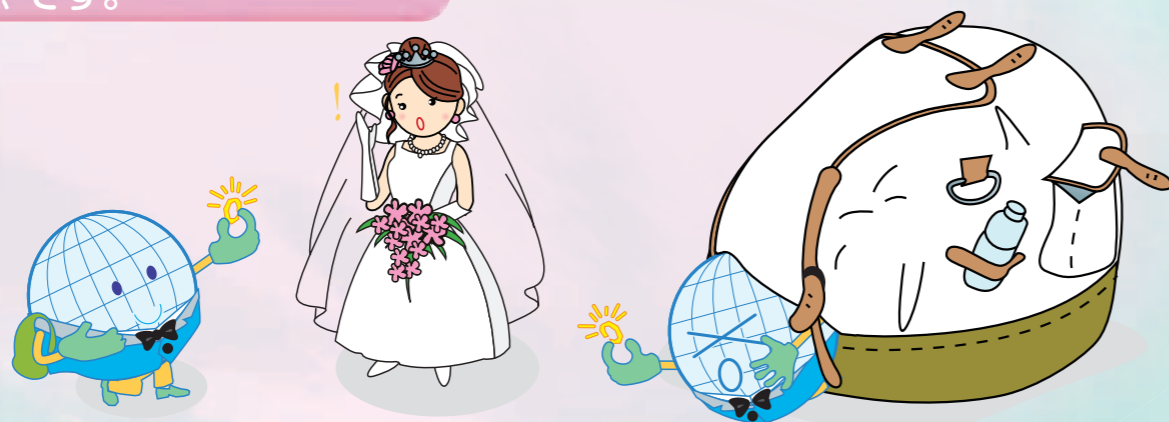


DOWA は地球を守ります。



金属リサイクルは…

省資源です。

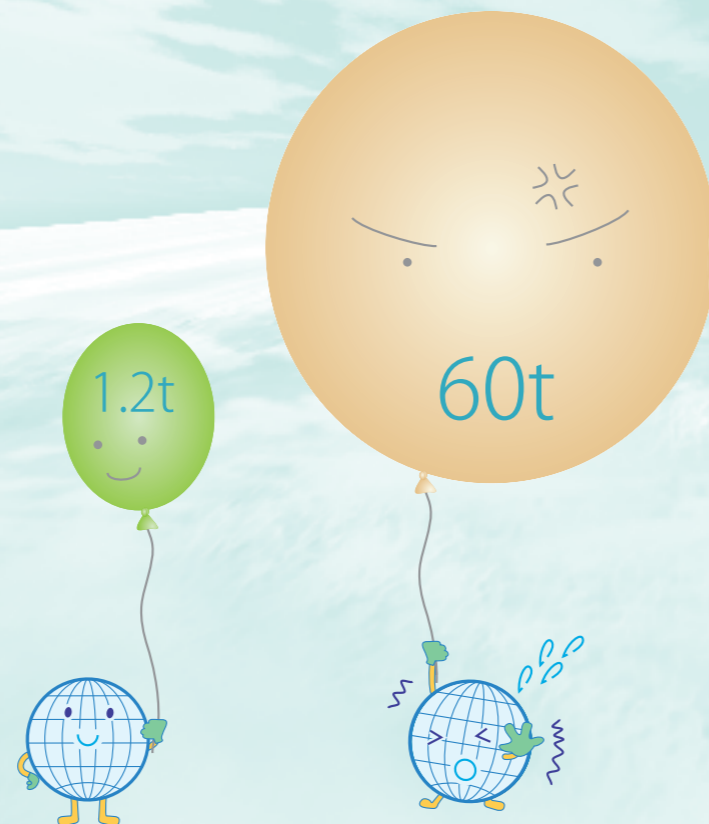


DOWA グループの重要な事業の一つとして、パソコンや家電に使われている電子基板等から貴金属をリサイクルし、社会に戻す仕事があります。この貴金属のリサイクルは貴重な資源を大切に使うだけでなく、環境にも優しい事業です。金属リサイクルが、どの程度環境に優しいかをエコロジカル・リュックサックという手法で見ていることにします。「エコロジカル・リュックサック」とは、ドイツのヴッパータール研究所 (Wuppertal Institute) で提案された手法で、ある製品や素材を作る際に、どれだけの物質が動かされ、交換されたかを重さに換算して表します。その重さが重いほど、製品は環境に対して大きなリュックサックを背負わせている (負担が大きい) ということになります。

たとえば、結婚式などで贈られる純金の指輪 5g を鉱石から作る場合、エコロジカル・リュックサックの重さは約 3 t と言われています。これに対して、金属リサイクルでは鉱石を掘り出す必要がなく、鉱石の破碎や輸送に係るエネルギーも少なくすむため、リュックサックはわずか 1kg、鉱石から作られる金の約 3,000 分の 1 です。

CO₂の発生量が少なくなります。

金属リサイクルすることで温室効果ガスであるCO₂の発生も少なくなります。鉱石から金を作る場合、金の採掘や選鉱、輸送、製錬等に多くのエネルギーが使われます。これに対してリサイクルの場合は製錬によるエネルギー消費が主なもので、輸送距離も鉱石の場合より短くなります。また、電子基板に含まれている金の割合は、鉱石中のものよりずっと多いため (約 50 倍)、回収される金の重さ当りのCO₂発生量も少なくすみます。通常、金含有量 5g/t の鉱石を使い金 1kg を作るために、採掘から製錬までの過程で約 60t のCO₂が発生します。これに対して、リサイクル金の場合、1kg 当りのCO₂排出量は 1.2t です。



DOWA グループは、森林育成・再生可能エネルギーの利用・温室効果ガスの破壊などにより地球温暖化の防止に貢献しています。

森林育成

DOWAグループは、緑化活動を推進しています。カラム山や鉱山跡地の修復・緑化をはじめ、浄化土壌と堆肥を利用した植林活動、地域や工場の周辺緑化なども積極的に行ってきました。現在、1道11県に人工林、天然林を合わせ1,613haの森林をグループ全体で所有しています。これらの森林には、スギ、マツ、アカシア、ブナ、ナラなどの多様な樹種があり、自然環境の保護や防災、水源涵養に役立っています。これら自社林のCO₂吸収能力は、年間約9,000 tと見積もることができます。

再生可能エネルギーの利用

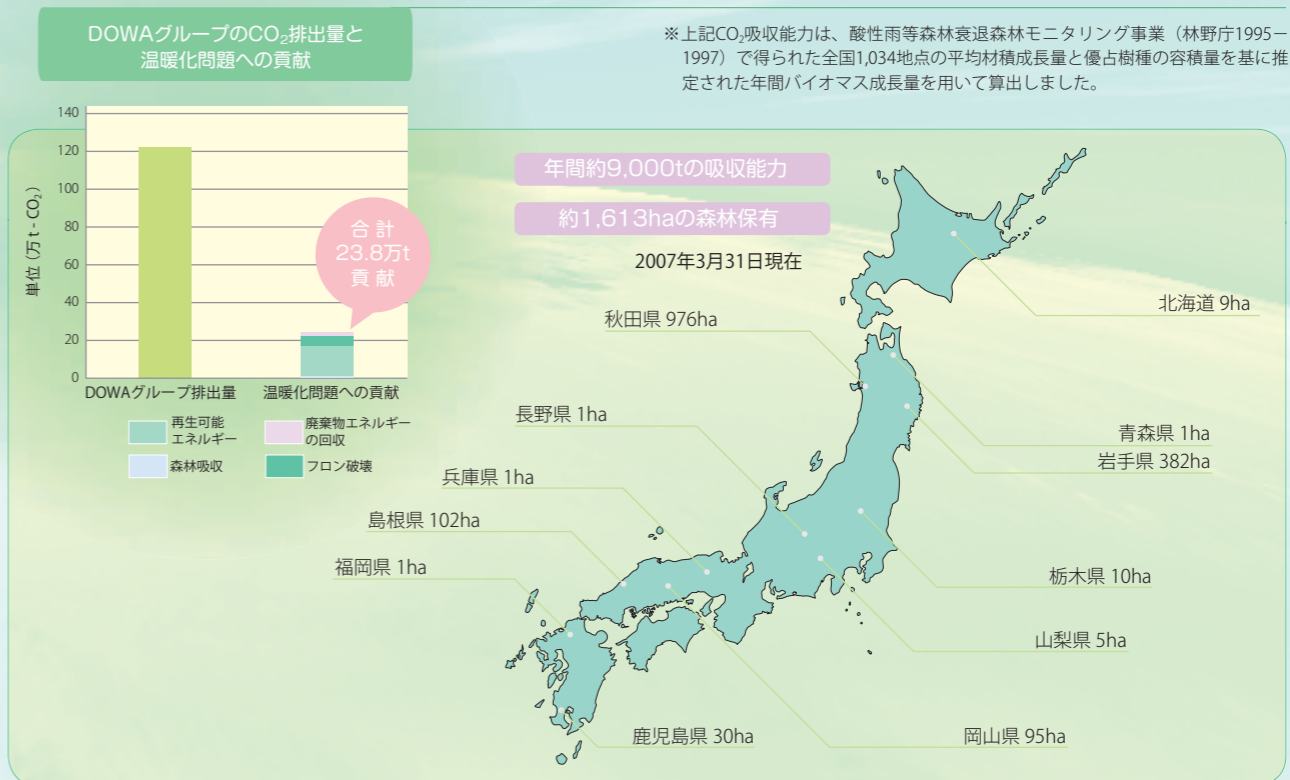
環境への負荷の少ないエネルギーとして、2006年度には小水力発電で69GWhの自家発電を行い、消費電力の一部を賄いました。また、162万 t の地熱蒸気を発電のために外部に供給しました (地熱発電で約180GWh相当)。これらは、地球温暖化をもたらすCO₂に換算すると156,000tの削減効果に相当します。

廃棄物エネルギーの回収

環境事業では廃棄物を焼却処理した熱も有効利用しています。2006年度には廃棄物発電で16GWhの発電を行いました。これはCO₂で換算すると10,000tに相当します。また、蒸気としても、全部で129,236GJ (ギガジュール) の排熱を利用しました。これは、原油換算で約300万KL、CO₂では9,473tに相当しています。廃棄物も無駄にしない。DOWAの取り組みのひとつです。

温室効果ガスの破壊

DOWAグループは京都議定書で指定された高い地球温暖化効果を示すPFC、HFCなどや、オゾン層を破壊するR11、R12、R13などのフロン類を回収・破壊しています。2006年度に破壊処理したこれらはCO₂換算でHFCが約2,700t分、その他のフロン類が約51,400 t 分 (計54,100t) に相当します。



DOWAグループでは、金属のリサイクルに努め、限りある資源と環境の保護に貢献します。



世界へ広がるDOWAのリサイクルネットワーク

DOWA グループの特徴ある企業活動と事業を通じた CSR



アジアを代表して発表する吉川会長

世界のDOWAへ ～アジア代表として国際会議でスピーチ～

2006年 11月30日、ケニア・ナイロビにおいてバーゼル条約（有害廃棄物の不適正な国際移動を規制する国際的枠組み）第8回締約国会議が開催されました。会議には113カ国の代表が出席し、有害廃棄物の環境上適正な越境移動に関する議論が行われました。E-waste（使用済み電気・電子廃棄物）がテーマとなった今回の会議において、アジア代表として出席したDOWAホールディングスの吉川会長が、E-Waste処理に不可欠な非鉄金属産業（DOWA）の役割やアジアに広がるDOWAのリサイクルネットワーク等を約300人の各国代表者にPRし、多くの賛同と評価を得ることができました。

VOICE 現在、アジアやアフリカ諸国でE-wasteの不適正な処理が原因で環境破壊や健康被害が深刻な問題となっています。DOWAの適正かつ安全な高度処理技術が、こうした問題を解決し、世界中の適正な資源循環推進に必ず貢献できると考えています。



吉川会長（右端）ほか6人の各地代表プレゼンター

アジア地域の資源循環 ～金属リサイクルのアンカー・DOWA～

DOWA エコシステムは2006年11月1日、東南アジア3カ国（タイ・マレーシア・シンガポール）で集荷した使用済み携帯電話を日本に輸入して再資源化する国際リサイクルネットワークの構築を目指すプロジェクトを立ち上げることで、バーゼル条約事務局ならびに環境省と基本合意しました。

各国政府の協力の下、使用済み携帯電話を回収するシステムを構築し、日本へ国際輸送して、DOWAの製錬所（小坂製錬）でリサイクルを実施します。将来的には、他のアジア諸国へ、そして携帯電話以外のE-Waste全般へリサイクルネットワークを広げて、DOWAがアジア全域の金属リサイクルのアンカー（最終走者）として、その役割を果たしていきます。



VOICE 今回のプロジェクトの基本合意で、アジアにおける国際資源循環ネットワークの実現に向けて、本格的な一歩を踏み出すことができました。アジアの資源循環の要として、DOWAの存在感を今後一層示していきます。



2006年11月1日プロジェクト調印式 プロジェクト対象国関係者ととも に バーゼル条約事務局・桑原事務局長（右から3人目）環境省 廃棄物・リサイクル対策部・由田部長（同4人目）DOWA エコシステム・山田社長（同5人目）



鉱山跡地などで本格的な森づくりにチャレンジ

DOWA グループでは、鉱山跡地など植生の困難な土地における森林育成活動を通して、自然環境の回復、保全を積極的に行っています。

鉱山跡地 は、かつての事業活動で原植生が消失し、新たな植生が生育しにくい環境にあります。DOWA グループでは、このような環境の厳しい地に積極的に木を植えて、自然の森に回復させていく取り組みを行っています。

また、植樹地の土壌づくりに地元や当社グループでリサイクルされた肥料や土壌を使用したり、地元の皆様とともに植樹行事や森林教室を行うなど、森林育成を通じて資源循環や地域社会への貢献に努めています。



小坂製錬の社員による植樹

小坂地区における森林育成活動

DOWA 発祥の地、小坂地区では、現在、植生生態学の第一人者 宮脇昭・横浜国立大学名誉教授が所長を務める(財)国際生態学センターと提携して、鉱山跡地や製錬事業地内のカラミ山(金属製錬の際に発生した鉱さいが堆積した山)を緑豊かな森にする試みを行っています。

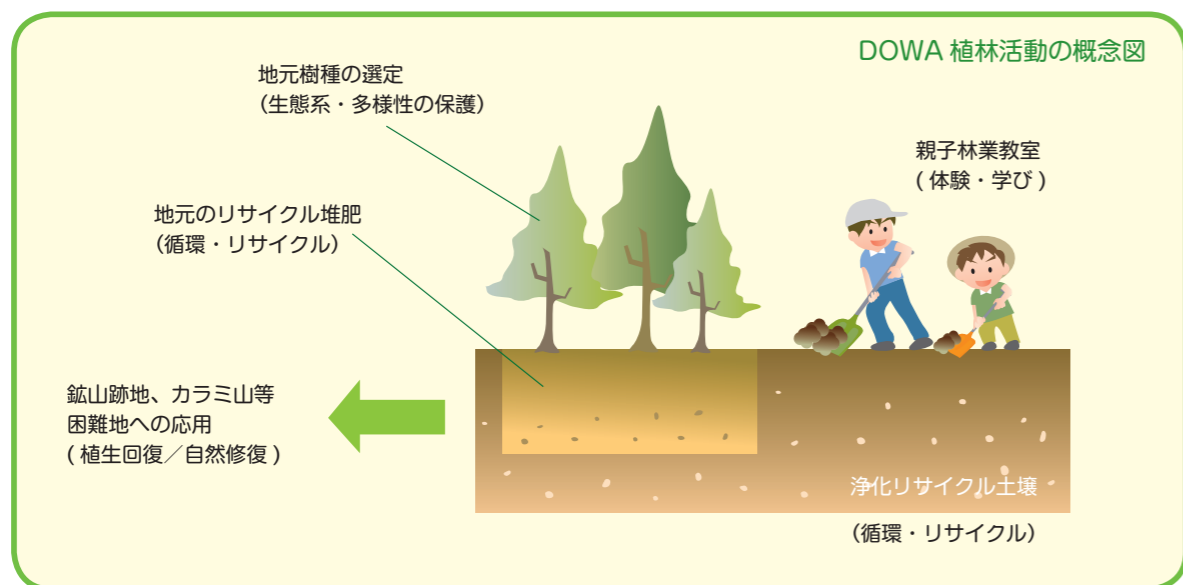
同センターの綿密な現地植生調査をもとに選定した潜在自然植生(この土地本来の樹種)16種類の樹種の苗木を1㎡あたり4本と混植・密植する方法を採用しており、自然淘汰を経て、災害に強く、CO₂の吸収能力に優れた広葉樹の多層樹林に

よる本格的な環境保全森林に成長することが期待されます。

また、植樹の地ごしらえに、小坂町が資源循環事業として進めている「生活ごみと小坂町特産の豚豚の豚糞から作られた堆肥」と「当社グループの環境事業で浄化した浄化土」を活用し、土壌の改善を行っています。

2006年度は、鉱山跡地、カラミ山などで、コナラ・ミズナラ・ブナ・オオヤマザクラなど19,000本の苗木を植樹し、堆肥15t、浄化土7,458tを使用しました。今年度も同じ手法を用いて、これらの地においてさらに20,000本の植樹を目指します。

DOWA 植林活動の概念図



参加した小学生の皆さんから
お手紙をいただきました。
ありがとうございました。

VOICE

親子林業教室の開催

DOWA グループの小坂地区社有地では、毎年、秋田県鹿角地域振興局に協力して、「親子林業教室」が開催されています。2006年度も、10月に鹿角市立中滝小学校の全校生徒と保護者が参加し、当社グループの森林育成担当社員も指導者となって、間伐、枝打ち、巣箱づくりなどを行い、地域の子供たちと自然の中で楽しく触れ合う機会となりました。



誓いの碑

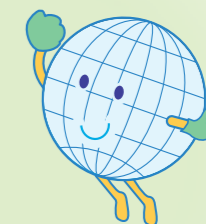
『誓いの記念碑』の建立

DOWA の創立記念日の9月18日、DOWA 発祥の地・小坂において、グループの事業地を一望する高台の地に『誓いの記念碑』を建立し、その除幕式を行いました。

この記念碑は、当社グループが自然との共生を誓い、また将来を担う子供たちのために持続的な循環型社会の構築に努めていくことを誓うものです。

除幕式には、秋田県や小坂町の行政関係者、小中学生および高校生など多数の地元の皆様にご列席いただき、記念碑の除幕を行い、碑の建立を記念して小坂町の木であるベニヤマザクラなどを植樹しました。

この様子は、地元のTVなどマスコミでも広く取り上げていただき、当社グループにとって、環境重視の今後の事業展開や地域との結びつきを深めるうえで、意義ある行事となりました。





DOWA杯ジュニア・ クロスカントリースキー 十和田湖大会

全ての人々が、スポーツを通してお互いを理解し、
健やかな地域社会づくりを目指せるよう、
地域のスポーツ活動を促進しています。



力いっぱい走りました。
この大会はDOWAグループの社員と地元スキークラブのメンバーを中心に、行政、警察、学校、観光協会、防犯協会、そのほか多くの地元の皆様のサポートを得て運営されており、東北各地から選手が集う地域の大イベントになっています。

DOWAグループは、秋田県の小坂町大川岱で開催されるジュニアクラスのクロスカントリースキー大会を主催しています。今年で17回目を迎える本大会には、毎年たくさんの地元小中学生が参加し、スキーの腕を競い合いました。2007年から、小学校4年生～中学校3年生の3km～10km距離競技に加え、小学校1～3年生の500m距離競技と障害者を対象としたシットスキー競技の2種目が増えました。今年には480名ものエントリーがあり、大会通算ではのべ1万人を超えています。なお、今年のみわか杉国体（秋田県）に出場した選手の多くも、DOWA杯の出場経験があります。480名の中でシットスキーにエントリーした選手は4名でしたが、大勢の観客が応援する中、予選では大会会長を加えた5名で、決勝ではエントリーした4名が

「やって良かった」という 達成感があります



小坂製錬 総務部 斎藤課長

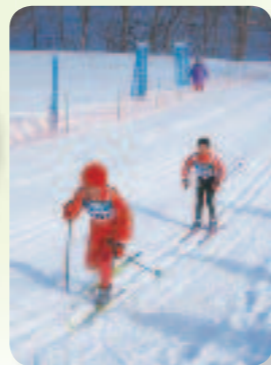
現地スタッフは、通常業務がある中でまさに寝ずの準備といったところで大変でしたが、皆、大会で子供達に喜んでもらうために頑張ってくれました。無事大会が終了した時点でそれが報われ、やって良かったという達成感があります。これは、現地で手伝ってくれた地元のスキークラブ、自治会の皆さん、大会運営に携わった全ての人と同じ気持ちだと思います。今年には新種目を2つも増やし、特にシットスキーでは競技まで行うことができました。何のスポーツにも段階がありますが、障害者が取り組むシットスキーという、まずは進めること、走れるようになることです。その次は競技ができることで、勝ちたいと思うこと、勝つために努力すること、その成果を試合で出せること。そしてさらに上を目指すことだと考えています。今回出場した子供の中に、真剣にパラリンピックを目指して頑張りたいと言ってくれた選手がおり、この短い間で選手がここまで成長してくれたかと思うと胸が熱くなりました。企業、個人としてできることは小さいですが、今後一人でも多くの子供に目標を持つきっかけを提供できればと思います。



○参加者選手コメント
・楽しかった。また、来年も参加したい。
・大会の皆さん、ありがとうございました。
・しんどかった。
・体の不自由な人が、シットスキーのような競技を出来ること自体信じられない。



○ボランティアコメント
・DOWA杯は、今後もずっと続けてほしい。
・シットスキーには、感動した。
・競技のパラエティーを拡げて欲しい。
・DOWA杯は、選手の育成のためには非常にいい大会だ。



シットスキーって、どんな競技？

冬季パラリンピックの正式競技であるシットスキーは、スキー板の上に専用のフレームを取り付け、その上に座ってストックで滑走します。基本的にスキー用具は体型などに合わせる必要があるため、車いす機器メーカーにオーダーメイドで製作を依頼し、参加者の練習用として貸し出しました。また大会前には、DOWAスキークラブのメンバーがストックワークや両腕の力のバランス、上半身の使い方といった技術指導を行いました。



化学物質に係る 環境対話集会の開催



企業活動を外部の目で評価していただき、今後のCSR活動に反映していくために、さまざまな形で情報発信を行うとともに、ステークホルダーの皆様との対話に努めています。

2007年 3月21日、新日本プラスでは、事業者と地域住民の参加による化学物質に係る「環境対話集会」を千葉県と共同で開催しました。この集会は、千葉県において事業者が地域住民の方々と化学物質に関する環境対話を進める上での手本となるような先駆的な事例づくりを目的としている、リスクコミュニケーション推進事業の一環として実施されました。地域住民3名、工業団地代表1名、行政（千葉県、旭市）2名、事業者2名の計8名のパネラーと、進行役・化学物質の専門家2名、傍聴者13名にご参加いただきました。



工場見学

対話集会の前に、パネラーの方々による新日本プラスの工場見学会を行い、環境と化学物質管理の状況について参加者にご説明しました。



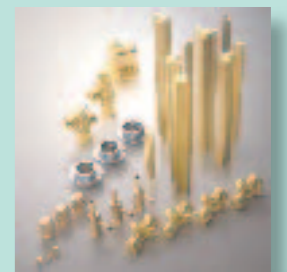
対話集会

行政からは千葉県における化学物質管理の方針と取り組み、新日本プラスからは工場における環境管理などについて説明を行い、その後パネラーの方々と意見交換を行いました。今回、対話の円滑化を図り中立的な立場から対話を進めるために、ファシリテーターと呼ばれる進行役を導入し、また化学物質に対する正しい知識と情報を提供するた

めに化学物質アドバイザーが同席する形で、活発な意見の交換が行われました。工場周辺の住民の方々をはじめ、周辺事業所や行政の方々に、事業所における化学物質の管理状況や化学物質の環境リスク低減に向けた取り組みについてご理解いただくとともに、事業所に対する貴重なご意見を伺うことができました。事業所において環境対策に関する対話を行うことは、地域の方々の関心やニーズを把握し、これからの取り組みに生かすことにつながります。また、このようなコミュニケーションの場を持つことで、ステークホルダー（地域住民やNPO）の方々とお互いの認識を深めるよい機会となったと思います。

新日本プラス株式会社

●企業データ：自動車部品や住宅設備、水洗金具等の原料となる黄銅棒の製造から、鍛造品、切削加工品および金型生産までを一貫して手掛ける鍛造メーカー
設立：1961年 所在地：千葉県旭市 資本金：1億円 従業員：約95名
●環境について
企業として、品質面はもとより環境保全と安全への積極的な取り組みが非常に重要な経営課題と認識し、2005年に環境方針を策定しました。また、事業活動の目的遂行にあたっては、環境保全との調和に配慮し、社会への貢献を目指してEMSに基づいた活動を進めています。2004年3月にISO9001（2000年版）、2006年1月にISO14001の認証を取得しています。





社会性報告



DOWAグループは、コンプライアンスを確立するため、ホールディングスとグループ各社が内部統制の基本方針や基本システムを共有するとともに、具体的な活動では各社ごとの独自性を活かせるようにすることで、効果的で効率的な内部統制システムの整備を進めています。

2006年の主な取り組み

DOWAグループでは、全国の事業所・関連会社が、「DOWAグループ価値観と行動規範」に基づき、それぞれの地域において特徴ある社会貢献活動に取り組んでいます。2006年度の主な取り組みは以下の通りです。

事業所名	活動の名称	実施時期 / 頻度	対象者および実施内容	2006年度の参加者数		
メタルマイン	秋田レアメタル	「夕日の松原」クリーンアップ	2006年9月30日	課長以上	5	
	秋田製錬	「夕日の松原」クリーンアップ	2006年10月1回	社員、関係会社	30	
	秋田製錬	会社前道路周囲のクリーンアップ	春と秋 年2回	社員、関係会社	60	
	秋田製錬	地域清掃活動	年1回	従業員	25	
エコシステム	エコシステム花岡	地域清掃活動	月1~2回	会社従業員	(延べ) 333	
	エコシステム山陽	緑化活動	年1~2回	会社従業員他	59	
	エコシステム山陽	不法投棄物の撤去(クリーン作戦)	2006年11月1回	産廃協東北支部会員による不法投棄廃棄物の撤去	5	
	エコシステム山陽	ウォーキング大会	2006年11月1回	近隣地区の不法投棄物撤去	70	
エレクトロニクス	エコシステム秋田	放置廃棄物の撤去事業	2006年9月~	近隣地区の放置廃棄物撤去		
	エコシステム秋田	植樹祭に参加	2006年4月1日	苗木600本贈呈		
	エコシステム千葉	夏の交通安全運動に参加	2006年8月1日			
	エコシステム千葉	袖ヶ浦市環境連絡協議会	月1回	袖ヶ浦市と加入企業が環境に関する情報交換と、地域清掃打合せ等実施		
	エコシステム千葉	袖ヶ浦市工場連絡協議会	年4回	各企業が参加し、持ち場を決め道路清掃実施	12/回	
	エコシステム千葉	袖ヶ浦市産業フェスタ	年1回	市民を対象にしたイベントへの参加	2/年	
	同和通運	公道緑地帯の除草作業	年2回	従業員	7/回	
	エコシステムジャパン	クリーンアップ作戦	2006年11月28日	ボランティアで不法投棄物の回収(岡山県産業廃棄物協会主催)	3	
	エコシステムジャパン	花いっぱい運動	2006年5月24日	花岡地区学校、町内会連合会などに協賛(寄付)		
	ジオテクノス	環境展	年1回	DOWAエコシステムの後方支援	6	
	エコシステムリサイクリング(東日本)	地元河川清掃参加	2006年12月1回	DOWAホールディングスと共同で実施	20	
	アクトビーリサイクリング	軽度障害者グループエコの社会復帰のための職場提供	随時	NPO法人環境と福祉を結ぶ会グループエコ	25	
エレクトロニクス	アクトビーリサイクリング	クリーン活動	年2回	道路脇のごみ拾い	101	
	DOWAエレクトロニクス岡山	NPO法人主催 旭川アダプト・プログラム一斉清掃	不定期 年3~4回	管理職	3~5	
	DOWAエレクトロニクス岡山	岡南地区緑道清掃作業	2006年12月1回	従業員	200	
	DOWAエレクトロニクス岡山	秋田湾環境保全協議会	2006年4月1回	秋田湾地区の事業所と地域住民の協議会で環境保全に関する報告、協議を行う。	全体: 25	
メタルテック	DOWAエレクトロニクス岡山	DOWAエフテック	エコボランティア活動	年2回	社員、工場近辺の清掃、除草	25
	DOWAエレクトロニクス岡山	DOWAエフテック	地域清掃	年2回	社員参加による工場入口~柵原病院間までの清掃活動	40
	DOWAメタル	杉林の枝打ち作業	2007年3月1日	環境保全推進協議会委員		
	DOWAメタル	小さな親切運動	年1回	近隣企業 清掃作業	2	
メタルテック	DOWAメタル	DOWAパワーデバイス	工場周辺の草刈・清掃	年4回	社員、周辺の草刈・ゴミ拾い	30
	DOWAメタル	DOWAパワーデバイス	アルプス展望ロードレースへの協賛	年1回	市役所へ協賛金の出資	
	DOWAハイテック	備前川清掃(工場排水の放流先河川)	2006年11月1回	本庄地区社員61名及び自治会(川底の清掃活動)	61	
	DOWAハイテック	工場周辺清掃(利根川の土手、進入道路)	2006年6月、9月、2007年2月 年3回	本庄地区社員(清掃活動)	150	
サーモテック	新日本プラス	工場周辺の道路清掃	年4回	管理職及び従業員	40	
	DOWAサーモエンジニアリング	浜名湖クリーン作戦(浜松)	2006年6月	地域企業による浜名湖周辺清掃活動	2	
ホールディングス	DOWAサーモエンジニアリング	工業団地周辺の地域清掃活動(真岡、半田、滋賀)	随時	工場周辺、公園などの清掃	25	
	大阪支店	クリン大阪2006	2006年11月7日	社員によるビル周辺の清掃	社員	
	柵原事業所	処理場周辺の草刈	2006年6・8・11月	従業員による草刈	4	
	秋田地熱エネルギー	コスモス植苗	2006年6月1回	地元高松コスモスライン沿線でのコスモス植苗運動に参加	多数	
秋田地熱エネルギー	蒸気設備周囲残置森林の育成	2006年7月1回	従業員による下草刈り	社員		

情報公開への取り組み

DOWAグループは、社会に開かれた企業として工場見学に積極的に取り組んでいます。工場見学はステークホルダーの皆様と当社を結ぶ大切な接点の一つと考え、操業状況を見学していただき、安全や環境への取り組みについてもご説明を行っています。

また、取引先やユーザーの方々を対象とした見学会のほか、地元の小・中学生や従業員の家族など様々なステークホルダーに対し、広く門戸を開いています。

事業所名	公開の内容	主な対象	実施頻度	2006年度の参加者数	
メタルマイン	秋田製錬	創立記念日の式典に周辺住民を招待し、工場見学	2006年5月1回	20	
	秋田製錬	学生・生徒を対象とした見学会	年10回	100	
メタルマイン	小坂製錬	工場見学	都度	1,827	
	小坂製錬	ユーザー、一般見学者、学生等			
エコシステム	エコシステム花岡	地域住民を対象とした事業説明会	年1回	30	
	エコシステム山陽	工場説明	ユーザー、各種団体・行政など	年100回以上	400
	エコシステム秋田	地域住民による見学会	地域住民	毎月	1,420
	エコシステム千葉	構内見学、会社概要説明	顧客、地元住民	都度	8
	エコリサイクル	工場見学(会社概要説明及び工場作業風景見学)	見学希望者	毎週月~金曜日、9:30~11:30、13:30~16:30	1,491
	エコリサイクル	家電・OARリサイクルの見学及び説明会	従業員家族	適宜	33
アクトビーリサイクリング	水俣エコタウンフェスタでの工場見学会	水俣市民他	年1回	200	
	見学会	見学希望者	随時	395	
エレクトロニクス	DOWA IPクリエイション	家族見学会	年1回	64	
	DOWA IPクリエイション	従業員、関係者の家族			
メタルテック	DOWAメタル	工場見学会	都度	30	
	DOWAメタル	小学校 工場見学会	小学校5年生(森町)	2006年11月1回	15
	DOWAハイテック	排水処理施設見学会	近隣住民	2006年5月1回	52
	DOWAハイテック	生産ライン他	ユーザー	年12回	56
ホールディングス	秋田地熱エネルギー	蒸気設備見学	小学生以上 個人はPR館見学 団体は蒸気設備案内	2006年5月~11月 随時	6,164
	柵原事業所	処理場見学	見学希望者	随時	

このほかにも、環境に関する展示会・イベントへの出展、またWEBを使った情報発信などの取り組みを行っています。 [詳しい内容はWEB版CSR報告書に掲載いたします。](#)

安全への取り組み

DOWAグループでは、事故防止と意識向上のために、労働安全衛生活動に関する教育を、社員や協力会社従業員に継続的に実施しています。特に環境・安全の教育が実務上不可欠な生産部門では、様々な訓練・教育のほかにリスクアセスメントや事故事例に関する勉強会なども実施しています。

訓練内容

- 安全環境教育
- 緊急時対応訓練
- KYT教育
- リスクアセスメント実務教育

- 事故事例研究等

[詳しい内容はWEB版CSR報告書に掲載いたします。](#)





CSRトピックス

DOWAグループの各社では、ステークホルダーの皆様とさまざまなCSR活動に取り組んでいます。2006年度の活動より、その一部をご紹介します。



見学者とともに 環境コミュニケーションを推進

小坂製錬

小坂製錬では、毎年2千人程度の見学者を受け入れています。グローバルな視点でのリサイクル事業、資源循環型社会の重要性について理解していただき、このような知識啓蒙、人材育成を通じて、世界の資源・環境問題の解決に貢献することを目的としています。

2006年度の見学者は、取引先の他、4月から6月にかけて地元小坂高校の環境技術科生徒3学年88名の見学研修、10月にはJICA研修生18名の視察を受け入れました。貴重な資源である鉱石から有価金属を効率的に回収すること、使用済みの製品から再び有価金属やエネルギーを回収し、廃棄物を無害化するプロセスや施設について紹介しました。

VoicE 秋田県、小坂町では循環型社会の構築を積極的に進めており、小坂製錬の見学を通してリサイクルの仕組みを実感し、現実を理解してもらいたいと思います。今後も広く活動を続け、資源・環境問題に対して一緒に取り組んでいける仲間を増やしていけたらと考えています。



DOWA
メタルマイン



DOWA
メタルテック

家族とともに 納涼祭を開催

DOWAメタル

DOWAメタルが毎年開催する納涼祭は、仕事場である工場の緑地を開放して行う全員参加方式の社内コミュニケーションの場です。社員だけではなく家族も参加し、さまざまな模擬店を自分たちで出すなど、できる限りたくさんの方が参加、歓談できる催しとして定着しつつあります。2006年で6回目を迎えることができました。

ペットとともに? 猫砂にリサイクル

DOWAサーモテック

2006年度、DOWAサーモテックではリサイクルの推進に力を入れて取り組みました。今までリサイクルは不可能、または困難とされていた産業廃棄物のリサイクル化に挑戦し、効果が出ています。

一例として、シュレッダーごみのリサイクルを実現しました。これまでシュレッダーをかけた紙は、その繊維が切断されて再生紙へのリサイクルは無理とされてきました。しかし、調査の結果、ネコなどのペットのトイレの材料(猫砂)として再生できることが分かり、これまで焼却処分を行っていた廃棄物が、現在は有効な資源となっています。



DOWA
サーモテック

障害をお持ちの方とともに 自立をサポート

アクトビーリサイクリング

アクトビーでは、軽度障害者の社会復帰を目的とする「グループ・エコ」に、テレビとエアコンの基板の手分解作業を委託しています。2003年より社会復帰を目指す場としてアクトビー社内での作業委託を開始し、現在は常時15～16名が出勤しています。この3年間に10名の方々が社会に巣立っていきました。アクトビーは「もやい(思いやり)」の街づくりを目指す水俣市に根ざす企業として、積極的に地域貢献や福祉に取り組んでいます。



DOWA
エコシステム

社員とともに コンプライアンスへの取り組み

DOWAエレクトロニクス岡山

岡山事業所内では、7社9組織が相互協力のもと、事業運営を行っています。2006年10月より、コンプライアンスについても事業所が一体となった活動を行うこととして、全社参加の「コンプライアンス委員会」を立ち上げました。

11月には契約・派遣社員の方々も含めた社員全員に、企業観、DOWAの目指す望ましい姿、望まれる行動、岡山事業所としての倫理方針などを記載した「コンプライアンス手帳」を配布し、各自が携帯することで企業倫理の徹底を図っています。

VoicE 企業倫理への取り組みを社員みんなが支持する文化を定着させることにより、企業価値の向上、よりよい人材の確保や士気の向上、管理コストの低減、迅速かつ公正な意思決定を図り、競争力を高めることに邁進します。今後は弁護士や教育機関の力を借りながら、教育・啓発活動を進めていきたいと考えています。



DOWA
エレクトロニクス

DOWA ホールディングス

地域とともに 地元高校との交流

DOWAテクノリサーチ

秋田県小坂町の小坂高校では、各種資格の取得や検定の合格に向けて取り組んでいます。環境技術科では危険物取扱者試験(丙種)を受験し、この試験に向けた補講の講師役をDOWAテクノリサーチ・小坂センターの社員2名が担当しました。補講は2006年7月3日から3日間にわたり放課後に行われ、環境技術科1年生34人が参加しました。

VoicE 補講では、テキストを暗記するだけではなく、それぞれの事象とその理由が理解できることを目的として、具体例を挙げた説明を行いました。生徒の皆さんからの活発な質問や意見があり、新鮮な刺激を受けました。今後もこのような場を通じて、環境への取り組みを推進するとともに、地域の皆様との交流をより一層深めていきたいと考えています。



DOWA
ホールディングス



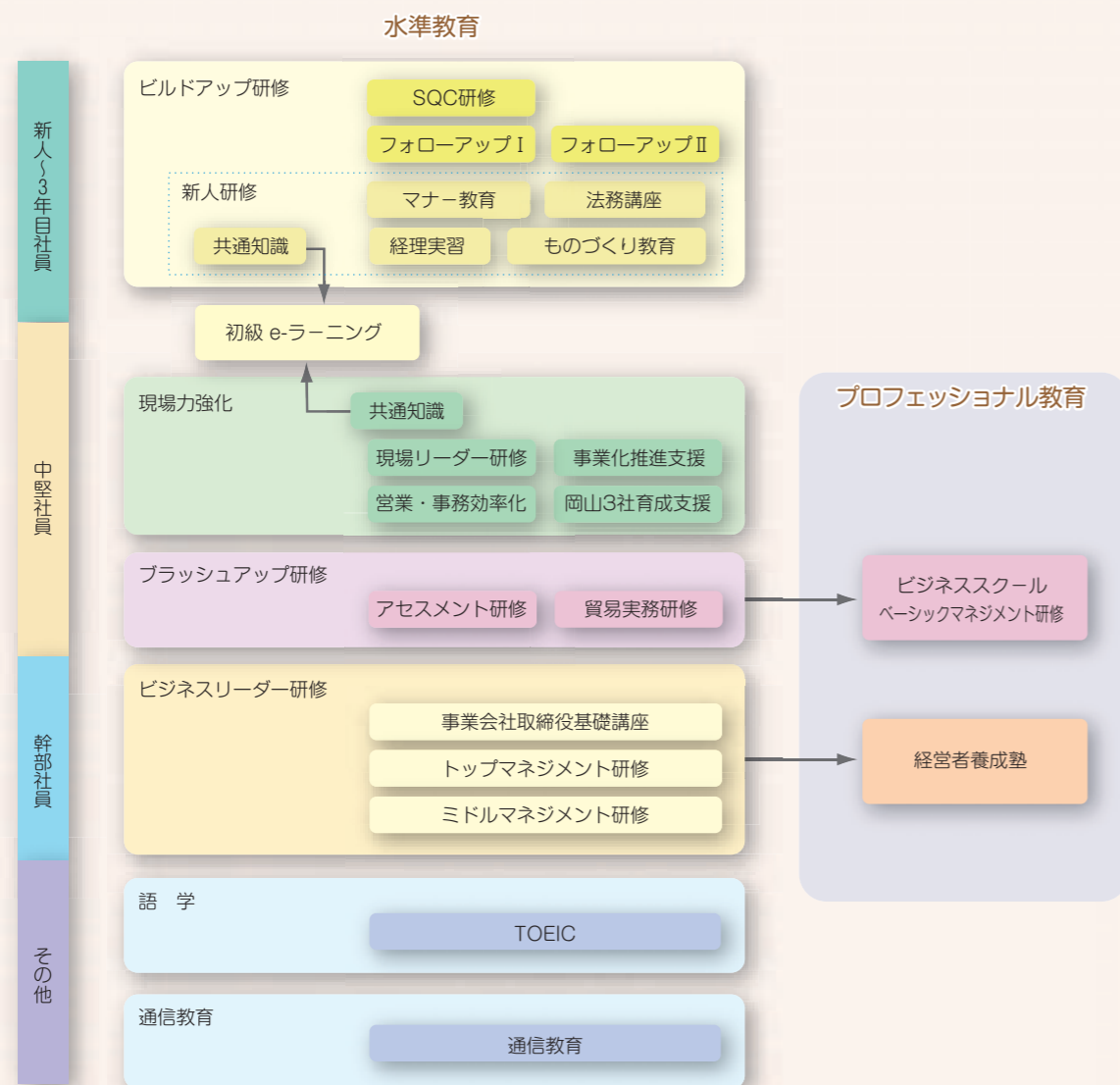
DOWAグループの人材育成



DOWAグループでは、経営として取り組むべき重要な課題の一つとして人材育成を掲げています。世界経済の流れを敏感に受け止められる、社会の要請に応えられる、企業の社会的責任を果たすことができるといった、社会に資する人材を世に輩出することは、DOWAグループ

の使命であると考えています。このために、社員の感性与行動力を磨いていくが必要になります。その姿勢をより明確にし、改革へのスピードアップを図るため、2006年1月より、グループ全体の教育部隊として、人材開発部門を発足させています。

DOWAグループの教育体系図



人材開発部門では、2006年をDOWAグループの教育元年と定め、新たな教育体制の構築に取り組んでいます。当面の目的は、以下の4項目です。

- (1) 5-10年後の経営者を養成する
- (2) プロフェッショナルを育成する
- (3) 現場力を高める
- (4) 新人を3ヶ年で一人前に育てる

また、DOWAグループが求めるのは、以下の3要素を兼ね備えた人材です。

- (a) 高い専門性を持った人材
- (b) 積極的に提案し、責任とスピード感を持って実行する人材
- (c) オープンでブラックボックスを作らない人材

上記を踏まえ、2006年度はこれまでの教育プログラムを整理・統合し、新たな教育プログラム9コースを加えた計16コースの研修を行いました。既存の教育プログラムも社内外のニーズに合わせ、内容を大きく変えています。

2006年度は、従業員/リーダー/マネジャー/経営職、全ての階層の教育を一気に立ち上げました。各階層の目標水準を高め、行動領域を広げることで、将来的には全社員がシームレス（継ぎ目なし）に守りと攻めを行える体制を整えることを狙っています。しかし、まだ全グループ会社や協力会社の従業員7,000余名全員を揺り動かす活動とはなっていません。2007年度はさらに領域を広げ、インパクトを高める活動を計画しています。



研修等の実施状況

階層	研修名	実施状況	概要	
新人層	新入社員研修	47名	2006年度新入社員	新入社員の導入基礎教育。社員としての基礎知識のほか、マナー教育、ものづくり教育、現場改善実習を行う。正しい経理を行えるセンスと業務遂行力を身に付ける。本社経理部門でのOJT教育を行う。実務で法律を使いこなせる人材を育成する。民法・商法・会社法などを実務に即した形で学ぶ。同期との相互研鑽、プレゼンテーション技術、知的財産に関する知識の習得。業務成果報告会と、知的財産講義を行う。
	事務系社員経理実習	16名	2006年度新入社員(事務)	同期との相互研鑽、プレゼンテーション技術、知的財産に関する知識の習得。業務成果報告会と、知的財産講義を行う。中堅社員となる前に、自己を振り返る。職場でのメンバーシップ行動を360°評価によって気づかせ、行動計画を立案する。
	法務講座	16名	2006年度新入社員(事務)	基礎的な統計・解析の知識や技能の習得を通じ、問題解決能力を向上させる。
	フォローアップI研修	33名	3年目社員	マネジャーに求められる資質と現在の能力のギャップを知り、成長目標とする。評価はアセッサーが行う。企業分析・評価のロールプレイを通じ、事業戦略や経理財務・労務などのマネジメントの知識を身に付ける。
中堅社員	フォローアップII研修	32名	3年目社員	講義・工場見学・ディスカッションを行い、リーダー同士の相互研鑽を図る。
	SQC研修	28名	4年目社員	貿易実務の基礎知識を持った人材を育成する。リスクマネジメントという視点で講義と個人ワークを行う。
	アセスメント研修	70名	中堅社員	キャッシュフロー経営・リスクマネジメント・戦略的思考を、討議と個人ワークを通して学ぶ。
幹部社員	ベジックマネジメント研修	16名	若手・中堅社員	経理財務・会社法・労働法に関する知識を、講義及び講師とのディスカッションを通して学ぶ。
	現場リーダー研修	52名	製造現場リーダークラス	マネジャー層に課せられた責任と権限を、討議を通じて再認識させる。あわせてリスクマネジメント研修を行う。
	貿易実務研修	26名	貿易実務担当者	グループ全社員への語学学習のための動機付けとして、TOEIC試験を運営。
その他	事業会社取締役基礎講座	35名	経営幹部	通信教育を用いたoff-JT教育の支援・補助。
	ミドルマネジメント研修	36名	マネジャークラス	安価で一律・一定水準の基礎教育ツールとして、新入社員教育および新任営業担当者教育用に活用している。
	TOEIC	311名	グループ全社員	
階層別教育	通信教育	124名	グループ全社員	
	e-learning	97名	2006年度新入社員、新任営業担当者	
各社教育支援 (現場力育成)	MM 営業・事務効率化	11名	営業・事務担当者	社内業務のムリ・ムダ・ムラをなくし、営業活動へ注力できる体制を構築する。
	E.L 事業化推進支援	7名	事業化推進担当者	ニーズ/マーケット発想への転換・事業化シナリオの作成・事業化推進人材の育成を、他社事例のインプットと、自社のアウトプットにて行う。
その他活動	岡山3社育成支援	9名	製造現場オペレーター・技術者	人材育成留学・工場見学・勉強会など工場間の人材交流を通じ、製造現場に刺激を与え、レベルアップを図る。
	小計	27名		

■: 既存 ○: 新規



DOWAグループでは、必要な資源やエネルギーの投入(INPUT)と、その活動から発生するCO₂や廃棄物(OUTPUT)を定量的に把握して、マテリアルバランスを考えながら事業活動を進めています。

グループの中で、出来るだけ物質やエネルギーを活用する。外部からの廃棄物も引き受けてリサイクル処理する。汚染を出さないよう安全に管理する。

いつも資源の循環を意識しながら、事業活動を行っています。

当社の取り組みを、以下のマテリアルフローに示します。

INPUT と



環境事業

DOWAグループの事業活動は、金属素材や半導体を作る製品製造事業と、

廃棄物のリサイクルや汚染の浄化を中心とした環境事業に分けて考えることができます。

製品製造事業では、投入する原料にリサイクル原料の使用を推進するとともに、

用水のリサイクルや省エネルギー機器の導入により、排水やエネルギー消費、

CO₂の削減を図り、環境への影響を最小化しています。

製品製造事業で発生した廃棄物の多くは、グループ内の環境事業に送られて資源が回収されます。

また、外部からも廃棄物を受け入れて、焼却、中和、固化など、

最適な方法で処理しています。

廃棄物の焼却の際には、発生する熱を無駄なく有効利用し、蒸気や電力として回収しています。

最終的に出てくる燃えがらや灰はグループ内で管理する処理施設に埋め立て、

安全に管理を行っています。



OUTPUT

環境管理体制

DOWAグループの環境管理活動は、持株会社である「DOWAホールディングス」の安全環境部門と、実際の環境保全活動を行う各事業会社の企画室が連携して行っています。ホールディングスは各事業会社間の調整・取りまとめを行うとともに、DOWAグループ全体のコンプライアンス管理を行っています。

環境管理システム導入状況

DOWAグループでは、主な生産拠点23事業所でISO14001を取得しています。2006年度は、物流事業者である同和通運がグリーン経営認証を取得しました。また、秋田レアメタル、DOWAパワーデバイス、豊栄商事が2007年度中のISO14001取得に向けて準備を進めています。

ISO14001
認証取得
事業所一覧

事業会社	事業所名	登録年月日	審査登録対象	
メタルマイン	秋田製錬	2005年 7月	電気亜鉛、カソード亜鉛、電気カドミウム、硫酸、発煙硫酸、鉛銀残渣、RT銅残渣、石膏、酸化鉄、清浄銅残渣等の製造および引渡しにより発生する環境影響の管理	
	秋田ジンクソリューションズ	2004年 3月	調合亜鉛、亜鉛合金、亜鉛粒、亜鉛線、及び亜鉛粉の販売	
	小坂製錬	2003年 6月	金、銀、銅、鉛、ビスマス、銀合金および硫酸の製造	
エコシステム	エコシステム山陽	1998年 5月	産業廃棄物及び特別管理産業廃棄物の中間処理	
	エコシステム秋田	1998年10月	廃棄物の中間処理	
	エコシステム千葉	2000年 8月	焼却及び油水分離による中間処理	
	エコリサイクル	2003年11月	廃家電及びOA機器等のリサイクル並びに廃棄物の中間処理	
	同和通運	2006年 5月	グリーン経営認証トラック運送業における環境保全	
	エコシステムジャパン	2002年 4月	・産業廃棄物・特別管理産業廃棄物及び一般廃棄物・特別管理一般廃棄物の収集運搬・処理等に関わる業務の受託のための営業活動 ・産業廃棄物及び特別管理産業廃棄物の収集運搬 ・非鉄金属等のリサイクル原料に関する営業活動	
	エコシステムリサイクリング東日本	1998年 3月	ケミカル品製品及び電子材料の製造、めっき加工・有価金属のリサイクル・電子材料の研究開発	
	アクトビーリサイクリング	2002年10月	特定家庭用電気機器等の再商品化	
	エレクトロニクス	DOWAセミコンダクター秋田	2004年 3月	同和半導体、半導体材料研究所におけるガリウム、インジウム、亜鉛、マグネシウム、及びアンチモン等の高純度金属/ガリウム磁素ウエハ/LEDチップ、ランプの設計・開発及び製造
		DOWA IPクリエイション	2000年 3月	鉄粉、酸化鉄、硫化鉄粉、フェライト粉およびZアイアンの製造
DOWAエフテック		2004年 3月	本社・橿原工場 ボンド異方性フェライト粉の製造	
メタルテック	DOWAメタル	2002年 4月	銅、黄銅及び銅合金の板、条、鋸めっき条、プレス加工品および切削異形条、開発、製造に係る事業活動	
	DOWAハイテック	1998年 3月	ケミカル品製品及び電子材料の製造、めっき加工・有価金属のリサイクル・電子材料の研究開発	
	新日本プラス	2006年 1月	黄銅棒製品、鍛造品及び切削加工品の設計・開発から製造、販売まで	
サーモテック	浜岡工場	2001年10月	金属熱処理炉の設計開発 炉の保守メンテナンス	
	真岡工場			
	横浜工場			
	豊田工場	2002年10月		
	滋賀工場			
	中京工場 開発センター	2003年10月		

電力

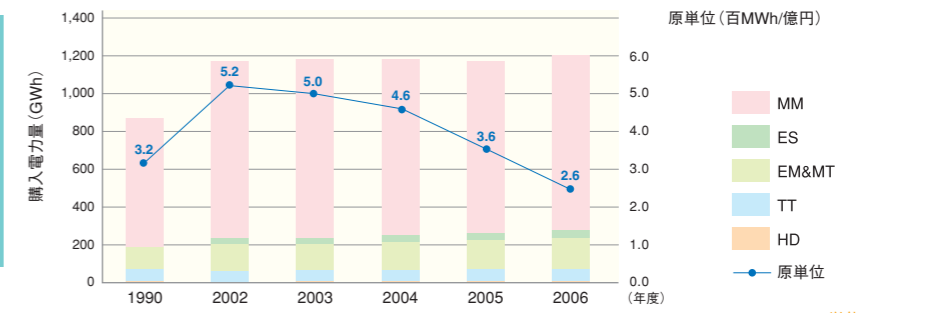
2006年度の購入電力消費量は、約1,191GWhで昨年に比べ約4%増加しました。これは製錬分野の業績好調の影響が主なもので、売り上げ原単位では28%の削減を達成しました。

また、2006年3月の本社移転に伴い、関連会社を集中させたため総面積が増え、電力消費量はアップしました。しかし、移転先である「秋葉原UDXビル」は経済産業省や独立行政法人新エネルギー・産業技術開発機構(NEDO)の「BEMS導入支援事業」の認定を受けており、単位面積当たりのエネルギー消費量は大幅に削減されました。

秋葉原UDXビルの省エネルギー

- 外気を効果的に利用する「自然換気チャンバー」や、ビル内部に蓄熱された熱を夜間に効率的に排熱・冷却する「ナイトバージ機能」などの省エネ型空調の導入
- 窓ガラスに遮熱性ガラスを採用し、冷暖房エネルギーの節減
- コージェネレーションシステムによって電力の一部を賄い、発電時に発生する排ガスと熱エネルギーを冷房等に利用

年間購入
電力量の推移



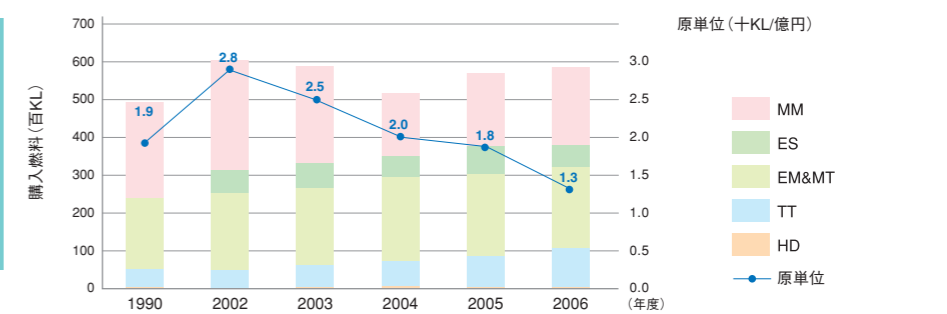
カンパニー名	1990年度	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度
MM メタルマイン	671.93	924.23	935.96	922.83	892.56	919.42
ES エコシステム	2.50	24.43	26.71	27.37	30.41	33.58
EM&MT エレクトロニクス&メタルテック	119.82	146.70	142.81	152.14	154.14	158.60
TT サーモテック	57.68	56.19	56.78	58.04	71.96	75.48
HD ホールディングス	6.63	0.00	3.63	4.89	3.11	3.70
合計	858.57	1,151.54	1,165.89	1,165.26	1,152.17	1,190.78
原単位 (百MWh/億円)	3.2	5.2	5.0	4.6	3.6	2.6
売上高 (億円)	2,675	2,210	2,347	2,542	3,164	4,587

燃料

2006年度の燃料消費については、原油換算で59.6千KLを消費しました。このうち、運輸関連での燃料が4.1千KL、運輸以外が55.4千KLを占めています。燃料消費は前年比で約4%増加しましたが、売り上げ原単位では約30%の削減を達成しました。

また、1,613千tの地熱蒸気を発電のために外部に供給しました(地熱発電で約180GWh相当)。

年間購入
燃料の推移



カンパニー名	1990年度	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度
MM メタルマイン	257.2	293.6	258.8	170.3	195.8	217.0
ES エコシステム	2.0	62.8	63.1	51.4	72.3	55.5
EM&MT エレクトロニクス&メタルテック	189.7	204.9	208.3	224.7	212.7	220.2
TT サーモテック	54.2	51.1	64.1	69.2	88.0	101.3
HD ホールディングス	1.1	0.0	1.3	4.7	3.2	2.1
合計	504.2	612.4	595.5	520.4	571.9	596.2
原単位 (十KL/億円)	1.9	2.8	2.5	2.0	1.8	1.3
売上高 (億円)	2,675	2,210	2,347	2,542	3,164	4,587

温室効果ガスの排出状況

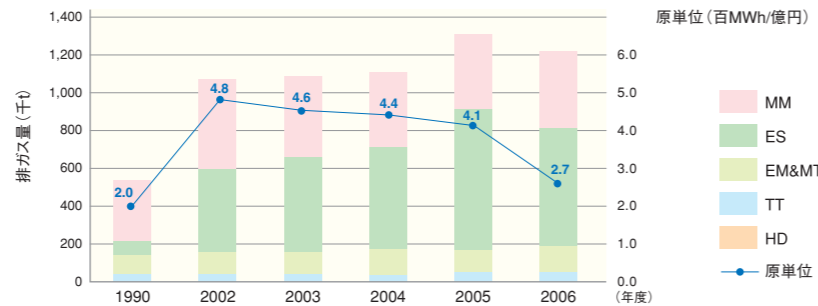
DOWAグループでは、地球温暖化防止への対応として、プロセスや機器の省エネ化、廃棄物発電や廃熱の有効利用、CO₂排出の少ない燃料への転換等といったハード分野での対策に加えて、アイドルングストップの推進や無人時の消灯などの身近な対策まで、さまざまな形での取り組みを行っています。

2006年度の温室効果ガス排出量はCO₂換算で122万tとなり、前年度と比べて6%減少し、売り上げ原単位では34%の削減となりました。これは主に環境事業が外部から受け入れている廃棄物のうち、廃油や廃プラが減少したことに伴うものです。

社外から受け入れた廃棄物の焼却による排出については、受入側でコントロールしたり削減することは困難です。そのため、廃棄物焼却熱を使った発電や蒸気利用などのサーマルリサイクルを進めることで、削減に取り組んでいます。

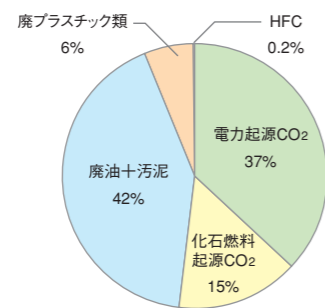
なお、環境事業以外の事業分野からの排出は、昨年度に比べ微増しました。

温室効果ガス発生量の推移



カンパニー名	1990年度	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度
MM メタルマイン	327	467	427	397	394	411
ES エコシステム	69	449	505	544	740	633
EM&MT エレクトロニクス&メタルテック	104	119	119	126	123	128
TT サーモテック	34	31	35	37	45	50
HD ホールディングス	3	0	2	3	2	2
合計	538	1,067	1,087	1,106	1,304	1,223
原単位 (百MWh/億円)	2.0	4.8	4.6	4.4	4.1	2.7
売上高 (億円)	2,675	2,210	2,347	2,542	3,164	4,587

地球温暖化防止への取り組み (2006年度実施)



- 省エネルギー活動
 - ・高効率タイプの照明器具への切替
 - ・高効率ポンプの採用
 - ・デジタルタコメーターの導入
 - ・蓄熱マット・蓄冷式クーラー装備車の導入
 - ・設備の出力、回転数の制御

- 運輸活動
 - ・船便や鉄道輸送の利用拡大
 - ・ディーゼル車の廃止
 - ・輸送距離の見直し
 - ・小口、小ロット配送の低減
- 廃熱エネルギー活用
 - ・廃棄物焼却廃熱を利用した自家発電
 - ・廃棄物発電の導入
- 温室効果ガス発生が少ないエネルギーへの転換
 - ・灯油、ブタンガスから天然ガスへの転換
 - ・重油から天然ガスボイラーへの転換
 - ・電気加熱式の炉から都市ガス、天然ガス加熱炉への転換
- その他 身の回りの取り組み
 - ・アイドルングストップ運動
 - ・無人時の消灯
 - ・ピーク時のエアコンの停止
 - ・NO残業デいの推進

詳しい情報はWEB版CSR報告書に掲載いたします。



廃棄物発生量の経年変化

2006年度の廃棄物発生量は51万tで、前年度に比べ3%減少しました。売り上げ原単位では約35%減少しています。

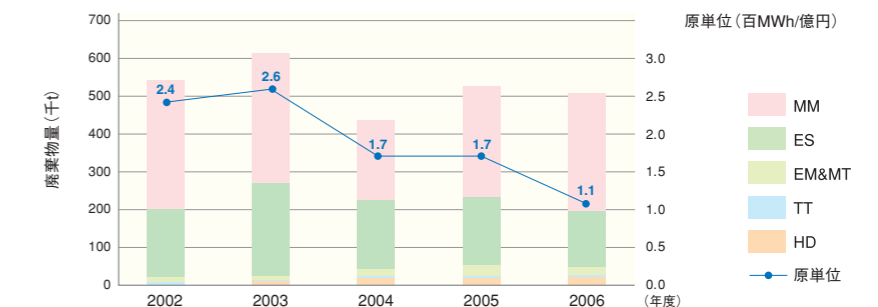
廃棄物の種類としては、製錬事業によって排出される鉱さいが全体の約46%を占め、ついで汚泥、燃えがらとなっています。

廃棄物を削減するための取り組みとして、生産工程からの副生物のリサイクル、工程の効率化、歩留まり率の向上などによる改良・変更等を行っています。

単位: 千t

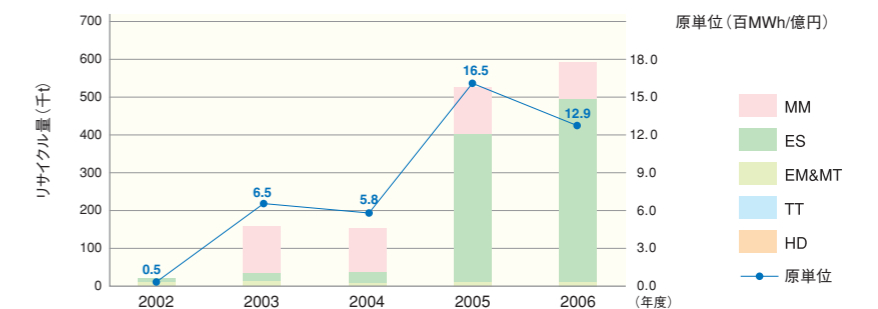
カテゴリー	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度
鉱さい	337.7	343.0	206.5	217.8	235.3
燃えがら	58.3	72.0	47.0	95.2	69.5
汚泥	39.9	51.2	31.3	112.3	100.4
ばいじん (ダスト類)	21.6	20.1	20.1	25.6	28.7
廃油	8.3	1.2	1.4	1.5	1.3
廃プラスチック類	0.6	2.7	3.1	3.3	5.0
廃アルカリ	1.4	9.8	7.7	9.2	6.1
金属くず	2.4	0.6	0.6	0.4	0.4
がれき類	0.9	0.5	3.5	8.2	5.1
廃酸	0.5	0.4	0.5	0.8	0.7
ガラス・陶磁器くず	0.3	1.7	1.6	0.6	1.1
紙くず	0.2	0.2	0.2	0.4	0.3
木くず	0.2	0.1	1.2	0.4	0.4
繊維くず	0.0	0.1	0.1	0.0	0.0
布類	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
プラスチック	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
ゴムくず	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
産廃の処理物	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3
特定有害産廃	0.0	0.0	1.3	0.0	0.5
シュレッダーダスト	0.0	0.0	0.0	0.5	1.1
ドラム缶等スクラップ	2.7	0.0	0.0	0.0	0.0
鉄スクラップ	2.7	0.0	0.0	0.0	0.0
塩素系溶剤	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他	59.0	108.6	107.1	48.4	53.0
合計	536.8	612.0	433.1	524.7	509.1

年間廃棄物発生量の推移



2006年度のリサイクル量は、前年度に比べ68.5千トン、約13%増加しました。リサイクル率を向上させるための取り組みとして、金属リサイクル、パレットのリサイクル、燃えがら等のセメント原料へのリサイクルを行っています。2006年度は、設備の撤去に伴う建設廃棄物のリサイクルを推進しました。

年間リサイクル量の推移



2006年度、DOWAサーモエンジニアリングでは、廃ショット粉のリサイクルを推進しました。金属の熱処理加工には、部品に付いているスケールなどを除去するための「ショット工程」があります。これは、熱処理後の部品に細かな鋼球(直径1mm程度)を多数高速でぶつけて表面スケール等を除去するものです。この工程で、粉々になった鋼球を「廃ショット粉」と言いますが、これまではお金を払って産業廃棄物として処理していましたが、現在は鋼材にまで再生できる品質と認められ、リサイクルすることが可能になりました。

詳しい情報はWEB版CSR報告書に掲載いたします。



中期経営計画 事業構造改革 III - Jump up to the New Stage

事業構造改革IIIにおける達成目標(2009年3月末)

2009年3月末目標値	経常利益 : 400億円
	営業CF : 1,000億円 / 3年
	ROA : 13% (経常利益 / 期末総資産で計算)
投資計画	投資総額 : 800億円(3年間の通算)
	研究開発 : 150億円(3年間の通算)

2006年度は、集中分野での積極投資・事業拡大と、高品質な管理能力を基盤として、高効率で高収益な企業へと改革していくことを基本指針としています。2008年度末までの事業構造改革IIIの初年度として、設備投資など将来のための施策に積極的に取り組みました。

2006年度の財務ハイライト

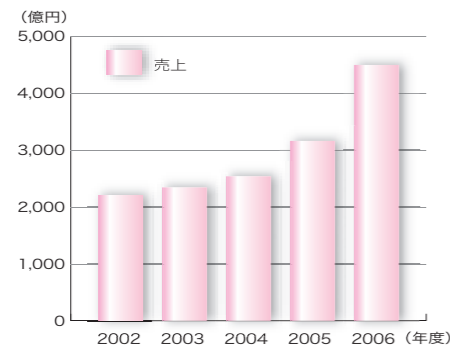
2006年10月、同和鉱業株式会社は、製錬、環境・リサイクル、電子材料、金属加工、熱処理の5つの事業部門を会社分割により分社し、その全株式を保有する持株会社「DOWAホールディングス株式会社」として新たにスタートしました。

DOWAグループ全般の実績

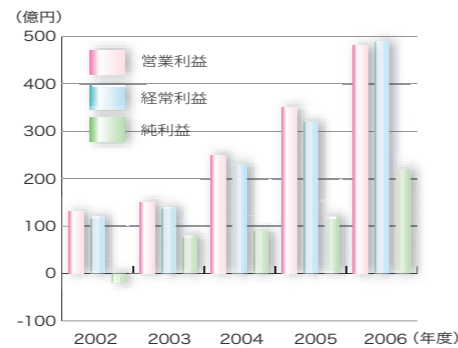
2006年度は、中期計画施策の着実な実行に加え、金属価格高騰などにより、計画を大きく上回る売上高4,587億円(前年比45%増)、営業利益487億円(前年比32%増)、経常利益497億円(前年比50%増)、純利益

263億円(前年比81%増)をそれぞれ達成し、全てにおいて過去最高益でした。また、設備投資などの将来的な成長のための施策を積極的に実施してきました。

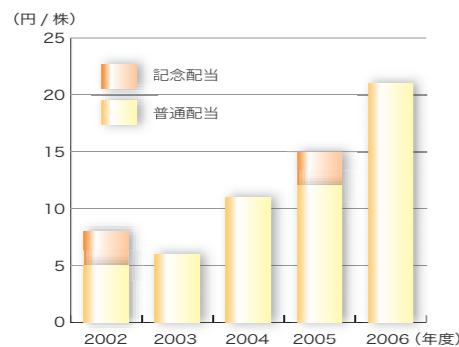
連結実績売上高



営業利益・経常利益・純利益



1株あたりの配当金



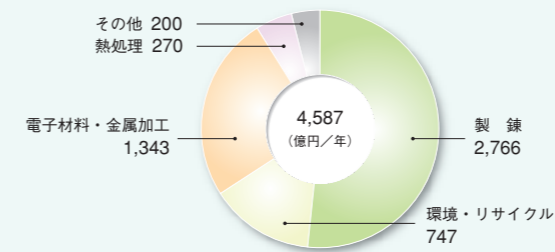
2006年度 主な投資

- ・小坂製錬新炉建設
- ・関東廃棄物処理拠点増強
- ・窒化物半導体工場建設
- ・コイル大型化加熱炉増設
- ・貴金属めっき工場増設

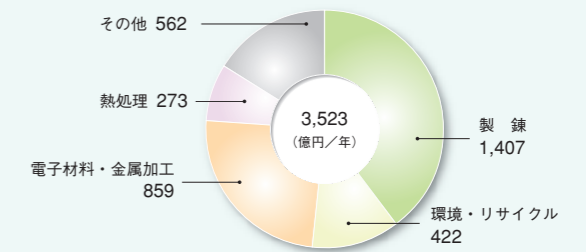
事業部門別実績

製錬	販売が順調に推移したことに加え、主要メタル価格上昇などにより大幅増収増益
環境・リサイクル	堅調な廃棄物処理、好調な金属リサイクルなどにより増収増益
電子材料	デジタル家電などの好調な市場への拡販などにより増収増益
金属加工	車載用コネクタ材、貴金属めっき、金属セラミック基板の拡販などにより増収増益
熱処理	名古屋の熱処理加工・工業炉製造会社「(株)セム」を買収、中京地区の生産能力増強、新炉の拡販などにより増収増益

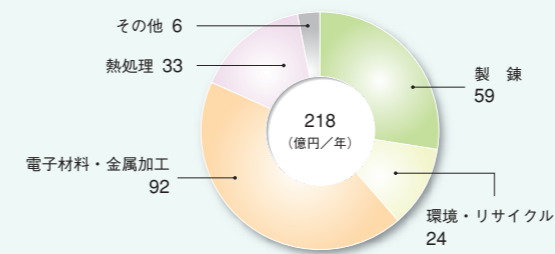
2006年度 事業部門別売上高(億円)



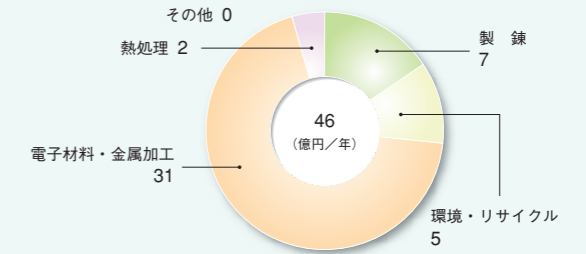
2006年度 総資産事業部門別内訳(億円)



2006年度 事業部門別設備投資額(億円)



2006年度 事業部門別研究開発費(億円)



外部経済効果 EEBE®

環境会計

DOWA グループの環境事業では、資源をリサイクルしたり、廃棄物を適所に処理し、無害化、安定化することで環境の保全に貢献しています。また、廃棄物を処理する熱を利用して、オゾン層を破壊したり、地球温暖化をもた

らすフロンや代替フロン類などを破壊、処理しています。これらの活動が、社会や環境に与えている効果について、外部経済効果 (External Economical Benefit Evaluation=EEBE®) という考え方を使得って評価しました。

廃棄物の処理による外部経済効果

廃棄物を処理することで、埋立処分場の寿命を延ばし、無害化によって廃棄物管理のコストを削減することができると仮定して、経済効果としました。

金属リサイクルによる外部経済効果

廃棄物から金属資源をリサイクルすることによる経済効果は、回収された金属自体の価値 (国際相場価格として LME: ロンドン金属取引所価格を使用) と金属を含む廃棄物の減容効果の両方を合わせて評価しました。

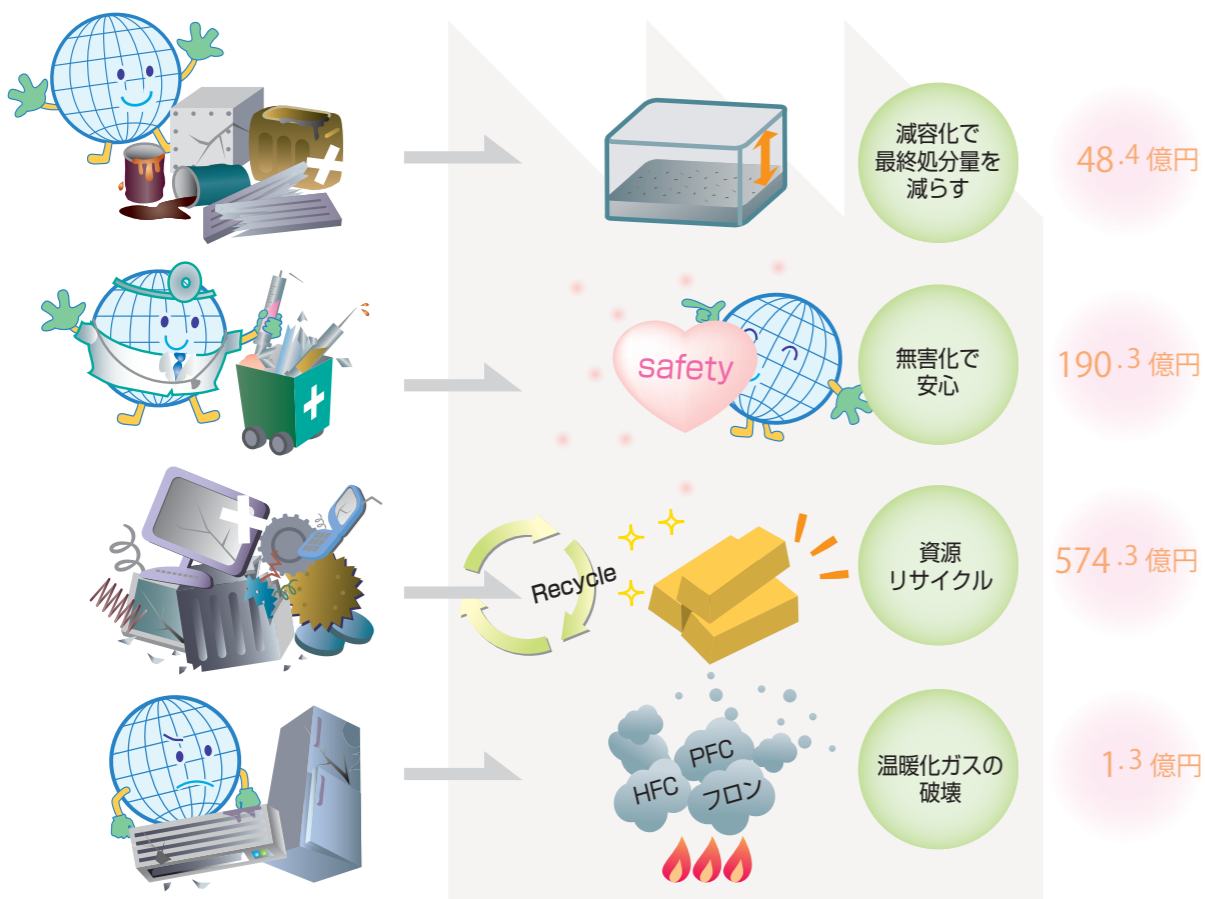
フロン・代替フロンの破壊による外部経済効果

フロン・代替フロンの破壊によってオゾン層破壊の防止、温暖化防止の効果が期待できます。今回は京都議定書で決められた温室効果ガス (HFC、PFC 類) の破壊による効果のみ評価するものとし、日本の産業界で CO₂ を 1t 削減するのに必要であるといわれるコスト 48,000 円/t-CO₂ を破壊量にかけるとで平均的の外部経済効果を計算・評価しました。

結果は以下のとおりです。

* EEBE の計算の詳細についてはホームページに示しました。
<http://www.dowa.co.jp/jp/ir/figure.html>

合計：814.3 億円



DOWA グループでは、2003 年度より環境会計の概念に基づき環境コストの把握を行っています。2006 年度の環境への配慮、汚染防止対策の費用 (環境コ

スト) と、リサイクル原料等、廃棄物中の有価物の売却によって得られた利益 (環境収益) について集計しました。

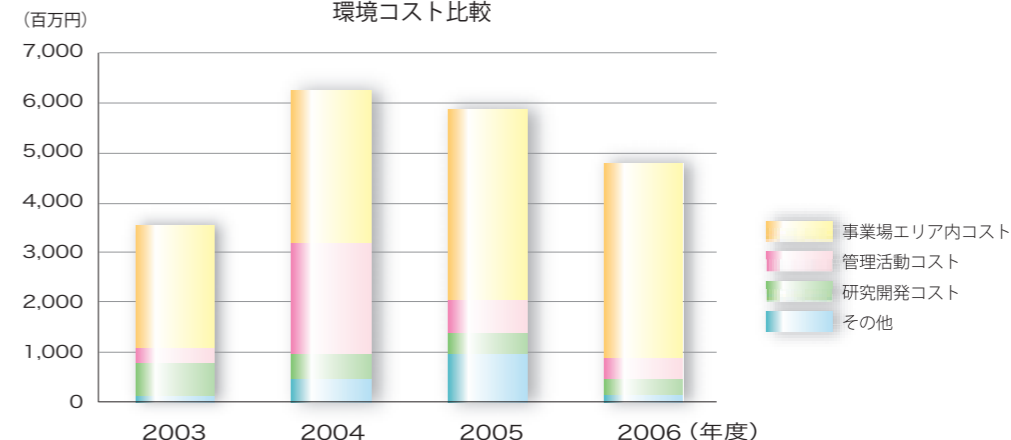
環境コスト

環境配慮と対策についての費用としては、特に水質汚濁の防止と大気汚染の防止対策に関する費用 (公害防止コスト) が最も大きくなりました。昨年度に比べて、37 百万円増加しています。また、フロンの処理など地球温暖化の防止に関する費用についても増加しています。

(単位：百万円)

大分類	中分類	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度
1. 事業場エリア内コスト	1. 事業場エリア内コスト	1,833	1,962	2,670	2,707
	2. 地球環境保全コスト	161	101	104	147
	3. 資源循環コスト	478	999	1,049	1,042
2. 上・下流コスト		2	373	700	48
3. 管理活動コスト		306	2,238	659	427
4. 研究開発コスト		661	489	412	321
5. 社会活動コスト		15	7	148	11
6. 環境損傷対応コスト		95	74	112	73
総計		3,551	6,243	5,854	4,776

環境コスト比較



環境収益

金属・スクラップ類や金属を含む水処理沈殿物などをリサイクル原料として売却したことによる収入は 178 百万円で、昨年度よりわずかに減少しました。

廃棄物リサイクルにより生じた収益		2004年度	2005年度	2006年度
		数量 (千 t)	12.7	20.7
	金額 (百万円)	52	199	178

同和鉱業からDOWAホールディングスへ

持株会社制スタート ～新たな改革のステージへ～

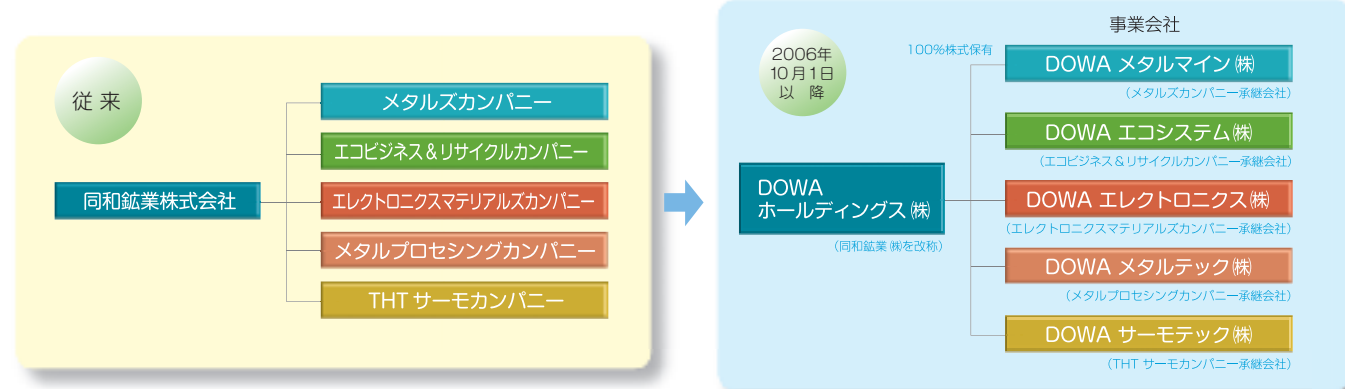
当社は昨年10月より持株会社制を導入し、社名も同和鉱業からDOWAホールディングスに変更いたしました。製錬、環境・リサイクル、電子材料、金属加工、熱処理の5つのコア事業部門(カンパニー)を会社分割により分社し、分社した承継会社の全株式を保有する持株会社「DOWAホールディングス」と独立した5つの事業会社を中心とした組織体制へ移行しています。

当社は2000年4月からの事業構造改革で、「選択と集中」による筋肉質な企業体質づくりと、4つのコアビジネス(製錬、環境・リサイクル、電子材料・金属加工、熱処理)による強固な収益基盤づくりに取り組み、順調かつ着実に成果を上げてまいりました。昨年4月からは新たな3カ年の中期経営計画「事業構造改革III～Jump up to the New Stage～」がスタートし、「改革の目標レベルをさらに引上げ、未踏の領域に挑戦」をスローガンに、

更なる飛躍を目指すビジョンを掲げています。事業構造改革IIIには、これまで以上に積極的かつ大胆な施策を盛り込んでおり、各事業がそれぞれのマーケットのフロントランナーとして国内外での競争に勝ち残ることを目指しています。

持株会社制への移行は、こうした事業構造改革IIIのハイレベルな目標を実現するための重要な施策と位置づけています。5つの事業会社は市場の最前線で顧客ニーズをより敏感に捉え、権限を持って迅速な意思決定を行うとともに、事業特性に応じて柔軟かつ大胆な事業運営を実施していきます。また持株会社は、戦略機能を発揮し、人材、技術、資金等の経営資源をグループ内で機動的・横断的に活用することで、グループトータルで企業価値の最大化を目指し、グループの総力を結集させていきます。

持株会社制の導入によるグループ組織体制

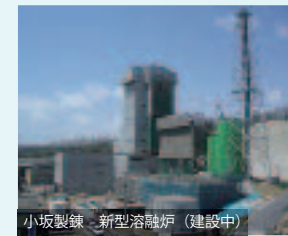


製錬部門：DOWAメタルマイン



■事業内容
金・銀・銅・亜鉛・鉛・亜鉛合金・プラチナ・インジウムなどの非鉄金属の製造・販売

■事業トピックス2006
「リサイクル原料対応型新型炉の建設」
2006年5月、地球規模での資源循環型社会構築に貢献することを目的として、秋田県小坂町に新型溶融炉Top Submerged Lance炉の建設に着手しました。この新型炉は、多種多様なリサイクル原料や難処理原料、製錬中間原料、高金銀含有精鉱などを処理することで、有価金属の効率的なリサイクル、および廃棄物発生量の低減・安定化処理を実現します。さらに炉内温度制御、雰囲気制御にすぐれ、独自に開発した要素技術によって新たに錫、ニッケルを回収し、金、銀、銅をはじめ19種類の元素回収が可能となります。現在も順調に設備の設置が進んでおり、2007年秋に完成後、試運転を経て2008年春には本格稼働する予定です。



小坂製錬_新型溶融炉(建設中)

「キーマテリアルを生み出す高度な製錬技術で東アジアNo.1へ」

DOWAメタルマインは、DOWAグループの創業以来事業を引き継いでいます。古くから自然に対して働きかけを行ってきた事業でもあります。それは鉱山を開発し、鉱石から採り出した自然の恵みを製品(各非鉄金属素材)にすることで、世の中に貢献してきました。

長い歴史のなかで培われた技術、ノウハウを、今、環境・リサイクルというかたちで、皆さんの生活に役立てようとしています。DOWA発祥の地である小坂に、リサイクル原料を中心とした新炉を建設し、周辺の製錬所と連携していきます。このような事業を通じて、資源の有効活用、再生といった循環型社会の一翼を担い、地域社会と共生していくことで、社会の皆さんのお役に立ちたいと考えております。



代表取締役社長 大西 哲夫

環境・リサイクル部門：DOWAエコシステム



■事業内容
廃棄物処理、土壌浄化、金属リサイクル、コンサルティング、管理型最終処理施設、貨物輸送

■事業トピックス2006
「鉄粉法特許取得」
2006年12月、DOWAエコシステム・ジオテック事業部では、揮発性有機塩素化合物(VOCs)で汚染された土壌に対し、鉄粉を添加・混合することにより汚染物質を分解して無害化する浄化方法として、「土壌の無害化処理方法」の特許(特許第3862394)を取得しました。1999年から他社に先駆けて導入した鉄粉法は、適応範囲が広く、短期間・低コストで確実に土壌浄化が出来る非常に有用な工法として、広くお客様の支持を集めています。現在までの実績は約25万m²と、圧倒的な実績を誇っています。

今回の特許取得でさらにこの工法の有用性のPRを強化し、土壌浄化事業におけるDOWAのポジションを一層確固たるものとしていきたいと考えています。



土壌浄化用鉄粉

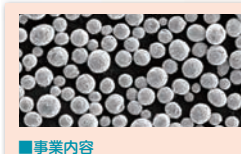
「環境事業領域で東アジアのリーディングカンパニーへ」

DOWAエコシステムは、廃棄物処理・土壌浄化・リサイクルの各事業を中核に、総合環境コンサルティング事業など、幅広いニーズに対応した環境ソリューションをご提供できる事業展開をしています。さらに、お客さまに安心していただくために、安全・遵法体制の強化により、安心・確実で社会貢献度の高い環境事業の展開を行っています。今後は、先に進出した中国およびシンガポールに続き台湾にも事務所を開設し、海外でのフィールドをさらに広げ、アジアを代表する総合環境ビジネス企業となり、資源循環を通じて持続可能な社会への貢献を目指します。



代表取締役社長 山田 政雄

電子材料部門：DOWAエレクトロニクス



■事業内容
高精度ガリウム、光デバイス用化合物半導体、伝送用・医療センサー用LED、フラッシュパネルディスプレイ(PDP)電極用銀粉、テラストラージテープ用メタル粉など電子部品材料

■事業トピックス2006
「窒化物半導体の新工場完成」
2007年2月、DOWAセミコンダクター秋田では、建設を進めていた窒化物半導体の工場が竣工しました。窒化物半導体は、高温、高耐圧下で動作する次世代の耐環境電子デバイスとして、ハイブリット車の加速向上(インバータ)、携帯電話の次世代基地局、スイッチング電源向け電子デバイスの小型化を実現する材料として有望視されています。また、深紫外～青色の短波長発光が得られるという特徴を持ち、白色LED照明や、殺菌や樹脂硬化用途向けの紫外発光デバイスとしても、今後急速に市場拡大が見込まれております。本工場の竣工により高品質チツ化アルミエド基板と窒化物系電子デバイスエド基板の生産が本格化し、すでにDOWAエレクトロニクスがトップシェアを占めるガリウムの素系半導体に各種窒化物系半導体エドが加わり、大幅に商品ラインアップが充実いたします。



窒化物半導体工場

「オンリーワン製品で業界トップを目指し、新事業を創出」

DOWAエレクトロニクスは半導体、電子材料、磁性材料といった製品を供給し、市場のニーズにお応えしています。これらの高い技術力に支えられた製品群を基盤に、幅広い領域での業界トップを目指すとともに、積極的な投資による新規事業の開発を進めています。当社の事業を展開する業界は、歴史と実力を兼ね備えた企業が揃っており、またお客さまもグローバルな競争の中に身を置かれる先端企業ばかりです。そのような厳しい事業環境において、当社は、既成概念に囚われることなく、激変する市場環境に柔軟に対応し、高いレベルを目指し、さらに成長・発展するよう、全社一丸となって全力を尽くしてまいりたいと考えております。



代表取締役社長 杉山 文利

金属加工部門：DOWAメタルテック



■事業内容
銅・真鍮・銅合金、リフロー銅めっき条、黄銅棒、鍛造品、貴金属めっき、金属セラミック基板の製造・販売

■事業トピックス2006
「タイ工場の設立」
2006年10月、金属加工事業のグローバル展開の一環として、東南アジア諸国の中で特に自動車産業の発展が目覚しく、車載部品の現地調達化が進むタイに、伸銅品の加工・販売を行う現地法人「DOWA METALTECH (THAILAND) CO., LTD.」を設立しました。

将来的には、タイを中核拠点とするグローバルな供給体制を構築し、自動車産業の大市場に成長することが予想されるインド、ベトナムなどへも販路を拡大するなど、輸出加工区の利点を生かしたアジア全域への事業展開を目指します。



タイ工場

「世界標準のコネクタ材を武器にグローバル市場で事業を展開」

DOWAメタルテックは、金属加工事業、めっき加工事業、回路基板事業を担うテクノロジー企業です。専門性の高い製品と技術サービスを幅広く整えて、お客様と市場のニーズにお応えします。中期計画に基づき、大規模な投資を実行すると同時に、製造現場を強化し、銅合金材料と車載向け電装部品のトップサプライヤーを目指します。そのために、情熱とスピードを重視し、常に現状を改善、領域にこだわらず、課題に果敢に挑戦する姿勢を大切にしたいと考えております。メタルテクノロジー関連のことなら、安心してDOWAメタルテックへ、そんなワンストップソリューションのご提供を目指す私たちに、どうぞご期待下さい。



代表取締役社長 石橋 幸雄

熱処理部門：DOWAサーモテック



■事業内容
各種熱処理、各種表面処理、表面改質処理、各種熱処理設備の設計・製造・販売、熱処理設備のメンテナンス

■事業トピックス2006
「(株)セムの買収」
2006年8月、工業炉の製造・販売および各種熱処理加工を行うセムがDOWAサーモテックグループの一員となりました。セムの工業炉は、設計から製造、そしてメンテナンスに至るまで完全受注生産で、顧客の多様化するニーズに的確に対応しています。また、熱処理部門では中部圏でもトップレベルの豊富な熱処理炉を保有し、中でもクリーンな熱処理として定評のあるプラズマ窒化処理、イオンプレーティングなど永年積み重ねてきた専門ノウハウで、多くの実績を積んでいます。



イオンプレーティング処理による製品

「熱処理製造技術のパイオニアとして、革新と積極投資で事業拡大」

私たちの業界は、熱エネルギーを生産手段に使う産業のため、地球温暖化防止に向けた取り組みは重要なテーマです。DOWAサーモテックでは、これまで省エネ設備の導入や改良を進め、CO₂排出量では、2005年度は2002年度比10%減(生産量原単位)を達成しました。また、省エネ型の熱処理設備の開発にも力を注ぎ、2002年には従来よりもCO₂排出量が52%も少ない画期的な設備を開発し、地球温暖化防止に取り組んでいる自動車メーカーの好評を得ております。私たちは「人にやさしい、地球にやさしい」をモットーに車作りを進めている自動車産業と二人三脚の業界です。同様の考えのもと、これからも地球環境保護を念頭において事業活動を進めてまいります。



代表取締役社長 荻野 峯雄

基本要件

発行日 2007年6月
次回発行予定 2008年6月
作成部署 DOWA ホールディングス 安全環境部門
HP アドレス http://www.dowa.co.jp/index.htm (日本語)
http://www.dowa.co.jp/english/index.htm (英語)
お問い合わせ 〒101-0021 東京都千代田区外神田四丁目14番1号 秋葉原UDXビル22階
TEL: 03-6847-1104
FAX: 03-6847-1120
メール: info@dowa.co.jp
以下の資料をホームページからご覧いただけます。
・決算説明会資料 http://www.dowa.co.jp/jp/ir/library_meeting.html
・有価証券報告書 http://www.dowa.co.jp/jp/ir/library_portfolio.html
・インベスターズガイド http://www.dowa.co.jp/jp/ir/library_guide.html
・アニュアルレポート http://www.dowa.co.jp/jp/ir/library_annual.html

WEB版CSR報告書(2007年9月末公開予定)
http://www.dowa-csr.jp

対象組織

2006年10月1日、同和鉱業株式会社は持株会社制に移行し、「DOWAホールディングス株式会社」と社名を変更しました。これに伴い組織変更が行われ、事業会社、子会社も名称が変更になっています。本報告書では、環境報告書2006とのデータの連続性を重視し、2005年度と同様の組織体制で集計を行っています。各社グループ子会社の名称は2006年10月1日以降の新社名を使用しています。

新旧社名対比表

Table with 3 columns: Group Name, New Name (from 2006.10.1), Old Name (until 2006.9.30). Rows include DOWA Metalmain, DOWA Eco-system, DOWA Electro-nics, DOWA Metaltech, DOWA Sermotech, and All Company Common.

注1: 分社化に伴い、小坂製錬所グリーンフィル課がグリーンフィル小坂となり。
注2: 分社化に伴い、小坂製錬所 KSR 課がエコシステム小坂となり。
注3: 分社化に伴い、同和鉱業岡山工場リサイクル課がエコシステム岡山となり。
注4: 分社化に伴い、DOWA ハイテックは DOWA メタルテックおよび DOWA エレクトロニクスの子会社となりました。

環境・社会活動の歴史

環境・社会への取り組み

Timeline of environmental and social activities from 1920 to 2018. Key events include: 1920 (Small坂 power plant), 1937 (Recycling), 1942 (Smelting process), 1944 (Safety), 1945 (Pollution prevention), 1949 (Resource recycling), 1950s (Recycling), 1961 (Ozone layer protection), 1970s (Waste management), 1980s (Pollution prevention), 1988 (PCB management), 1990 (ISO 14001), 2000 (Environmental report), 2006 (Transparency), 2008 (Internal control system).

DOWAの歩み

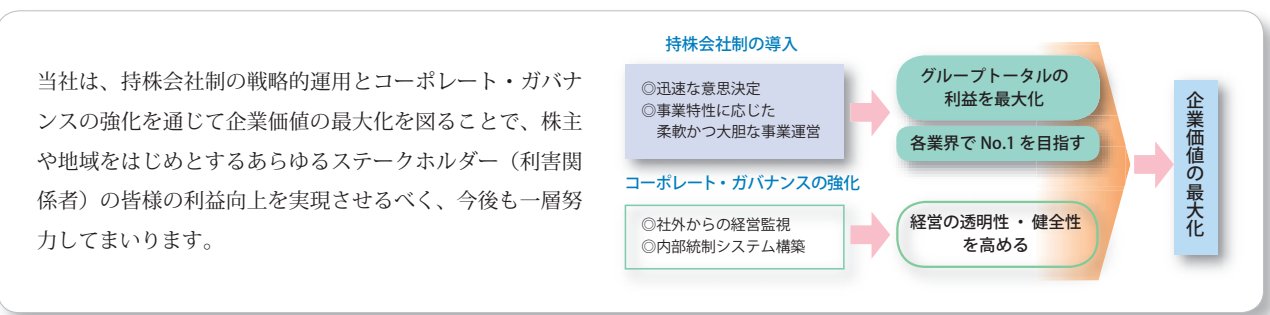
Timeline of DOWA's milestones from 1920 to 2018. Key events include: 1920 (Company founding), 1917 (Government support), 1930 (Small坂 power plant), 1932 (Small坂 power plant), 1935 (Small坂 smelting), 1944 (Company name change), 1928 (Small坂 smelting), 1932 (Company merger), 1934 (Small坂 smelting), 1938 (Small坂 smelting), 1942 (Small坂 smelting), 1944 (Small坂 smelting), 1946 (Small坂 smelting), 1947 (Small坂 smelting), 1947 (Small坂 smelting), 1948 (Small坂 smelting), 1955 (Small坂 smelting), 1957 (Small坂 smelting), 1958 (Small坂 smelting), 1961 (Small坂 smelting), 1963 (Small坂 smelting), 1969 (Small坂 smelting), 1972 (Small坂 smelting), 1973 (Small坂 smelting), 1974 (Small坂 smelting), 1975 (Small坂 smelting), 1976 (Small坂 smelting), 1977 (Small坂 smelting), 1978 (Small坂 smelting), 1979 (Small坂 smelting), 1980 (Small坂 smelting), 1981 (Small坂 smelting), 1982 (Small坂 smelting), 1983 (Small坂 smelting), 1984 (Small坂 smelting), 1985 (Small坂 smelting), 1986 (Small坂 smelting), 1987 (Small坂 smelting), 1988 (Small坂 smelting), 1989 (Small坂 smelting), 1990 (Small坂 smelting), 1991 (Small坂 smelting), 1992 (Small坂 smelting), 1993 (Small坂 smelting), 1994 (Small坂 smelting), 1995 (Small坂 smelting), 1996 (Small坂 smelting), 1997 (Small坂 smelting), 1998 (Small坂 smelting), 1999 (Small坂 smelting), 2000 (Small坂 smelting), 2001 (Small坂 smelting), 2002 (Small坂 smelting), 2003 (Small坂 smelting), 2004 (Small坂 smelting), 2005 (Small坂 smelting), 2006 (Small坂 smelting), 2007 (Small坂 smelting), 2008 (Small坂 smelting), 2009 (Small坂 smelting), 2010 (Small坂 smelting), 2011 (Small坂 smelting), 2012 (Small坂 smelting), 2013 (Small坂 smelting), 2014 (Small坂 smelting), 2015 (Small坂 smelting), 2016 (Small坂 smelting), 2017 (Small坂 smelting), 2018 (Small坂 smelting).

環境・社会活動の歴史
DOWAとは?
36 37
CSR REPORT 2007

コーポレート・ガバナンス

コーポレート・ガバナンス強化を図り、経営の透明性を高めることは当社経営の最高課題の1つです。決算説明会の開催や、国内外でのIR活動、株主懇談会の開催、株主通信の発行、四半期業績の開示などにより透明性の高い経営を実現するよう努めてきましたが、これに加えて、新たな取り組みも強化しています。
○2006年6月より、社外取締役を選任し、社外からの経営的視点を取り込むことによって、当社経営の健全性をより高めていきます。

Table with 2 columns: Year, Corporate Governance Initiatives. Rows include: 2000 (Company system introduction), 2001 (Board meeting start), 2002 (Company reorganization), 2003 (Director term reduction), 2006 (Company reorganization), 4月 (Company reorganization), 6月 (Director election), 10月 (Company system transition).

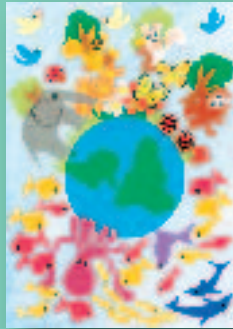


当社は、持株会社制の戦略的運用とコーポレート・ガバナンスの強化を通じて企業価値の最大化を図ることで、株主や地域をはじめとするあらゆるステークホルダー（利害関係者）の皆様の利益向上を実現させるべく、今後も一層努力してまいります。

DOWA Kids Museum



竹田 明生 / 7才
海にいるいきものをたくさんかいてみました。いるかに乗っているのはぼくです。



山口 友理 / 10才
地球のまわりを生き物でいっぱいにしました。



三ツ谷 佳怜 / 2才
「わんわんとさんぼ」おじいちゃんといっしょに、わんわんのさんぼにいったの。


この報告書の表紙は、
毎年 DOWA グループの社員の子供たちを対象とした
絵画コンクールの入賞作品を使用しています。
4年目を迎えた今年のテーマは「たくさん生き物とくらす地球」です。
応募作品は WEB サイト「DOWA Kids Museum (<http://www.dowa-csr.jp/kids2007>)」で
展示しています。ぜひご覧ください。

DOWA

DOWAホールディングス株式会社

<http://www.dowa.co.jp>

<http://www.dowa-csr.jp/kids2007>

*この広報紙は古紙配合率70%再生紙 **R70** を使用し、
大豆インキ  にて水無し印刷しております。

